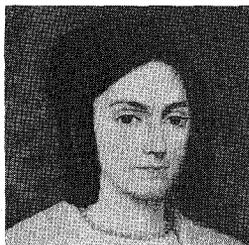


聖徒の道 6 1983





末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール
マリオン・G・ロムニー
ゴードン・B・ヒンクレー

十二使徒評議委員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
ハワード・W・ハンター
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・バックナー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト
ニール・A・マックスウェル

顧問

M・ラッセル・バラード
ローレン・C・ダン
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー
F・エンツィオ・ブッシェ

編集長

M・ラッセル・バラード

国際機関誌

編集主幹：

ラリー・A・ヒラー

編集副主幹：

デビッド・ミッチェル

子供の見編集：

ボニー・ソーンダース

デザイナー：

ロジャー・ギリング

制作：

ノーマン・ブライス

日本語版編集主任：

石玉 好己

もくじ

全力を尽くす	スペンサー・W・キンボール	1
日曜日のクリームサンデー	シプアオ・J・マツアウト	6
新たな心を与えてくれた人々	メアリー・エレン・エドマンド	9
ホームティーチングという名の伝道活動	ジェイ・A・パリー	15
聖典の中の女性たち	キャサリン・エルストラム	23
祝福師の祝福	ジェームズ・E・ファウスト	26
福音と恋愛	ブルース・C・ヘイフェン	31
もちよりシチュー	キャロル・ファアリー	38
予言者の力	ヒラマン10, 11章より	44
ふくいんクイズ	ロン・ウッズ	48
ローカルページ		50

■表紙説明：イギリスの画家デビッド・ロバーツは1830年代後半の聖地旅行中に多くの風景画を描いた。これはエルサレムのダビデの塔を描いた1839年の彼の作品を基にした石版画。

1983年6月号 聖徒の道 第27巻第6号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

東京都港区南麻布 5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社

定 価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

1部180円, 大会号350円

International Magazine PBMA0584JA Printed in Tokyo, Japan.

© 1983 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号/東京0-41512)にてご送金いただければ、直接郵送致します。注：お届け先の変更がありましたら、早急に渋谷ブックセンターにご連絡下さい。●「聖徒の道」のご注文・お支払いなどの連絡先……〒150 東京都渋谷区桜丘町28-8/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部渋谷ブックセンター/☎03-464-1617(代)

全力を尽くす

大管長 スペンサー・W・キンボール

このメッセージはキンボール大管長の承認と指示の下に、大管長自身の様々な説教から抜粋し、再編集したものです。

私は再度、次の質問を試してみたいと思います。

私たちは自分が影響力を及ぼせる範囲にある人々に福音を伝えるために、できる限りのことをしているでしょうか。

この業は急いで進めなければなりません。中にはそれを感じていない人もいますが、本当に急ぐ必要があります。この事柄に関して神に助けを求める人は、みたまの力によって、その緊急性を再認識することができるでしょう。

「見よ、畑は早白くして刈り入れを待てり。故に刈り入れんと欲する者は、何れも勢力をつくして鎌を入れ、日の尽きざる中に刈り取りて、神の王国に於ける永遠の救いをその身と霊とのためにたくわうべし。」(教義と聖約6:3)

主は私たちにこう勧告されました。「汝らもし、日の栄の世界に一つの所を得んことをわれに願わば、わが命じて汝らに求むるところを行いてその備えを為さざるべからず。」(教義と聖約78:7)

「すべての会員は宣教師になりなさい」



という主の戒めを知らないような会員が、現在の教会の中にいるでしょうか。より多くの宣教師が求められていることを知らない家族が、果たして今の教会の中にいるでしょうか。

私たちに託された、すべての国に福音を伝えるという責任は神聖なものです。より多くの宣教師、ふさわしい資格を備えたより多くの夫婦が求められています。宣教師にな

れる年齢の若人が、今よりもはるかに多く、伝道を志願するようにならなければなりません。それによって、彼らは伝道という大きな目的の中で、主の僕としての特権、祝福を享受することができるのです。すべての若人がこの主のみ業に備えるなら、教会も、そして彼ら自身も大きな力を蓄えることができるようになります。

ここ数年、教会員は忠実にこの呼びかけに応え、宣教師の数は倍増しました。しかし、私たちは主の戒めを遂行するために、今再び、速度を早め、より大きな力となって前進したいと望んでいます。

「教 会員となれる年齢になった会員であれば、十分に伝道の業を果たすことができます。……私はこのことを……すべての教会員の心の中に刻み込めればと願っています。」

教会員となれる年齢になった会員であれば、十分に伝道の業を果たすことができます。特に専任宣教師に任命されるのを待つ必要はないのです。私はこのことをより効果的にかつ忠実に、すべての教会員の心の中に刻み込めればと願っています。会員は皆、身の回りの人々に福音を伝える義務と責任を負っています。男女、年齢を問わず、すべての会員がこの義務を果たすよう望むものです。それは非常に重要なことです。なぜなら、福音から恵みを受けた者が今度はその恵みを他の人に分かち与えるのは福音の教える原則だからです。

さて、私たちは忙しく生活していますが、主は、「もしあなたの都合がよかったら、福音を述べ伝えるということについて考えてみて下さい」とは言っておられません。主は次のように言っておられるのです。「皆各々その義務を覚えよ。」(教義と聖約 107:99)「見よ……その警めを受けしことあるすべての人はその隣人を警むる責任あり。」(教義と聖約 88:81)

私たちは、この戒めに関しては神が共に働いておられることを覚えておかなければなりません。神は私たちの助け手であり、道を開いて下さいます。この戒めを私たちに与えられたのはほかならぬ神御自身だからです。

福音に耳を傾けようとしなない人が大勢いるため、時として、「主よ、わたしが呼んでいるのに、いつまであなたは聞き入れて下さらないのか」(ハバクク 1:2)と叫びたいことがあるかも知れません。そういう時は、ハバククに与えられた主のみ言葉

を思い起こして下さい。「わたしはあなたがたの日に一つの事をする。人がこの事を知らせても、あなたがたはとうてい信じまい。」(ハバクク 1:5)

今はまさに、より多くの地、より多くの人々に福音を伝えるべき時です。私たちにはその呼び掛けに応える準備ができていのでしょうか。私たちはニーファイと共に、再度こう言わなければなりません。「私は主が命じたもうたことを行って行く。私は主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前^{まももつ}以てある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわぬことを承知しているからである。」(I ニーファイ 3:7)

自分の都合よりも、自分の義務を優先させて考えるようにしなければなりません。今こそ教会において、犠牲がより重要な要素として考えられなければならない時です。ブリガム・ヤングとヒーバー・C・キンボールがイギリスへの伝道に出発した時の話を思い出して下さい。ふたりとも病気で、とても貧しい状態でした。それでもその召しを受け入れたのです。出発の日、ブリガム・ヤングの病状は極めて悪く、倒れたまま、起き上がることができませんでした。ヒーバー・C・キンボールがブリガム・ヤングを起こそうとしましたが、彼自身非常に弱っていて、どうにもできませんでした。それで彼は通りの向こうにいた兄弟に、「こっちへ来て、ブリガム兄弟を起こすのを手伝ってくれたまえ」と叫びました。ところが翌日、ふたりは伝道地へ向けて旅を始めていました。

「**主**は非常に自然な方法で、私たちの友人や知己の中に、この教会に入
る備えができた人を数多く置いておられると私は感じています。」

先にも述べたように、私たちは今なすべきこの業を進めるために、さらに熱心に神に仕えなければなりません。世の中には主と主のみ言葉に飢えてゐる人が数多くいます。彼らは、主の真理とみ業を求めているのですが、自分が何に飢え渴しているのか、何が自分の渴きを癒してくれるのかをはっきり理解していません。その渴きを癒すのは私たち教会員の責任です。

だれにでもできるひとつのことがあります。宣教師を初めとする会員一人一人が、求めているすべての人に福音を伝えることができるように、国々の門戸を開き、人々の心を和らげて下さるようと、心を込めて、絶えず主に祈るのです。

主は非常に自然な方法で、私たちの友人や知己の中に、この教会に入る備えができた人を数多く置いておられると私は感じています。ですから、祈りの気持ちを持ってそのような人々を見だし、福音を紹介できるような主の助けを祈り求めて下さい。特にこれだと思ふようなことがない場合は、「私は神が生きておられることを知っています」と証するとよいでしょう。それはこの世で最も素晴らしい証です。どのようにして福音を受け入れたか、またそれが自分にとって、他の人にとってもどれ程重要なものであるかを話すことができるなら、その言葉は主に対する強い証となります。

あなたの知り合いの中には、偶然に福音を聞く人もいますでしょう。また、あなたが示す心からの友情や関心によって、温かい気持ちを抱き、心を開く人もいます。

このように、私たちの周りには、福音を伝える機会がたくさんあります。恐れる必要がどこにあるでしょうか。福音は確かに、世を救いに導く神の力であり、すべての人に必要なものなのです。福音には人を作り変える力があります。福音を実践するなら、人々の生活は変わっていきます。真心から福音を受け入れる人は、以前とは違った新しい人になるのです。心を開き、福音に耳を傾ける人には、信じられないような素晴らしい祝福が与えられます。聞き入れる耳を持つ人には喜びと平安がもたらされ、福音の教えを受け入れ、全力を尽くしてそれに従う人には永遠の生命がもたらされるのです。

もう一度質問します。なぜ恐れる必要があるのでしょうか。福音を分かち合うなら、平安と喜びが生活の中に流れ込み、人々を愛し思いやる気持ちが強くなり、さらに、主との交わりを強め、福音の真理に対する理解を深めることができるのです。恐らく、福音を伝えた相手よりも自分の方がもっと大きな喜びを感じるに違いありません。

日々の生活の中で、伝道に対して熱意を燃やしている家庭は、皆霊的な再生を味わっています。私たちはどんな時にもこのみ業に仕えることができるよう、健康に注意し、経済的な援助ができるよう家計管理に意を払い、より力ある証ができるよう福音を熱心に学び、そしてみたま調和した生活をして絶えずそのささやきと導きを受けたいと望んでいます。

私たちはこれらの祝福を受ける準備をしなければなりません。自分自身を整え、毎

「日々の生活の中で、伝道に対して熱意を燃やしている家庭は、皆靈的な再生を味わっています。」

日の生活の中で伝道するために必要な段階を踏み行なうようにしましょう。自分自身が伝道に出る時のために、また、だれかが伝道に出るのを援助する時のために、準備をしましょう。

私は以前から、教会は家庭や教会の組織によってよく訓練され、準備された宣教師を求めていると話してきました。教会の若人は自分から伝道に出たいという気持ちを持つように訓練されなければなりません。義務感だけではだめです。自分から進んで出たいという気持ちが必要なのです。伝道に出るのは義務である、というのは真実です。しかし、若人は自分のため、また、他の人々、天父のために伝道に出たいという気持ちを持たなければなりません。これも重要なことなのです。

子供たちに幼い内から貯金をするようにし向けるのはよいことです。親は子に儉約の精神を教えて下さい。また、祈りの内に福音を学び、自分や周りの人々の生活の中で福音がどのような実りをもたらしているかを、自分で確かめるように教えて下さい。成長期の子供たちに奉仕の精神を教え、他の人が生活の中で福音の喜びを味わえるように手助けをする経験をさせて下さい。セミナー、インスティテュートを、自分自身はもちろん他の人々にも大きな価値のある靈的な知識を得るための訓練の場とするように教えて下さい。生活を清く正しいものとするにより、また主が備えのできた人に福音をお伝えになるに当たって心からその助けをしたいと望むことにより、伝道の準備とするように導いて下さい。

こうして準備をするなら、多くの祝福と靈的な報いが与えられ、その備え自体が自分の生活様式として定着していくようになるでしょう。これは個人、家族はもちろん、定員会、ワード部、支部にも当てはまることです。フレンドシップ、フェローシップを積極的に行ない、人を教会へ導こうとする動きほど、神権定員会や教会の組織に強い影響を及ぼすものではありません。そうした業に携わる人を結ぶ喜び、連帯感、愛は絶えることなく大きくなっていきます。

予言者ジョセフ・スミスの言葉を見てみましょう。「兄弟よ、われらまことに偉なる大義に向って進まざらんや。進み行きて退くことなかれ。奮い起てよ、兄弟たち。進み進みて勝利に至れ。汝ら喜べ大いに喜べよ。世の人、歌声を張り裂けしめよ。」(教義と聖約 128 : 22)

主はこう言われました。「すなわちシオンはその美と聖とを増し、その境域は拡がりそのステーキ部は堅うせられざるべからず。われ誠に汝らに告ぐ、シオンに起ちてその美しき衣を着けざるべからずと。」(教義と聖約 82 : 14)

私たちはシオンが完全に確立される日を待ち望んでいます。主は私たちに「されどまずわが軍をして甚だ大いなるものとなし」(教義と聖約 105 : 31)と言っておられます。

主の軍勢は大いにその力を増し加えていますが、ブリガム・ヤング大管長の次の予言を思い出します。「この王国は引き続き成長し、発展してその力を強め、いよいよ繁栄するであろう。敵が打倒を企てる度に、

「いかなる汚れた者の手も、このみ業の発展を止めることはできない。……神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出て立ち……」——ジョセフ・スミス

王国はさらに拡大し、その勢力を強めるであろう。衰退するのではなく、力を増し加え続けるのである。勢力が広がり、内容が益々充実し、国々の中であってひとときわ優れたものとなるであろう。そして遂には全地を覆い尽くすのである。」(Journal of Discourses「説教集」1:203)

予言者ジョセフ・スミスは次のはっきりとした言葉で私たちを励ましています。「いかなる汚れた者の手も、このみ業の発展を止めることはできない。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊が集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれない。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出て立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国々に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、み業は成ったと告げられることであろう。」(History of the Church「教会歴史」4:540)

私たちに強く求められている重要な責任があります。それは暗闇を抜け、喜びと平安と福音の真理へ通じる道を照らし、理解の目を開いてくれるろうそくを、この世の人々に伝えることです。

善を行なうことに疲れてはなりません。今こそ次のように、自分自身に問い直してみる時ではないでしょうか。世の人々に福音を伝えるみ業を進めるために、自分には何ができるだろうか。

ホームティーチャーへの提案

強調点: ホームティーチングの際、以下の点を強調するとよい。

1. より多くの宣教師、ふさわしい資格を備えたより多くの夫婦が求められています。宣教師になれる年齢の若人が今よりもはるかに多く、伝道を志願するようにならなければなりません。私たちは家庭や教会の組織によってよく訓練された宣教師を求めています。
2. 8歳を迎えた会員、あるいは、伝道に出られる年齢になった会員であれば、特に専任宣教師に任命されるのを待つ必要はありません。
3. 今はまさに、より多くの地、より多くの人々に福音を伝えるべき時です。自分の都合よりも、自分の義務を優先させて考えるようにしなければなりません。
4. 主は非常に自然ななさり方で、私たちの友人、知己の中に、この教会に入る備えができた人を数多く置いておられます。祈りの気持ちを持ってそのような人々を見だし、福音を紹介できるように主の助けを祈り求めて下さい。

話し合いのための提案

1. イエス・キリストの福音を分かち合うことについて、自分の経験や感じていることを話す。
2. このメッセージの中に、家族で読んだり話し合ったりするのによい聖句や言葉はないだろうか。
3. 話し合いをより充実したものにするために、訪問する前に家長と話し合っておくとよい。伝道について、定員会指導者や監督から家長にあてられたメッセージはないだろうか。



日曜日の クリーム サンデー

シプアオ・J・マツアウ

私は子供の時期をサモアで過ごしました。私も友達も水泳ぎが大好きで、いくら泳いでも飽きるということがありませんでした。もう4歳の頃から、安息日でも、日曜学校が終わったら、友達と泳ぎに行こうなどと考えていたのです。1週間の内の6日を一緒に遊び、泳いでも、まだ泳ぎ足りないという風でした。でも私は良い

末日聖徒の家庭で育てられました。母が模範と言葉によって、安息日を聖く過ごすように教えてくれたことを今でもよく覚えています。

母は私の気持ちを聖典に向けさせることで、この問題を解決しました。いいところを見せたがる私の気持ちをみすかして、聖典を読んで、聖句を暗記するようにしてみないかと言ってきました。私はそういったことをしてみたいと思っていたので大喜びです。すると母は聖書とモルモン経を手にして、「それじゃ、この2冊の本に書かれている聖句が覚えられるように助けてあげるから、日曜日の夕食が済んだら一緒に勉強するようにしましょう」と言いました。

私が最初に暗記したのは十戒と詩篇の第1篇で、その次がモルモン経のリーハイの家族の物語の中からでした。聖句の暗唱をしていく内に聖典に説かれている原則が自然に生活の一部になってきました。家庭の中で福音に忠実な生活をしていた両親の模範によるところもかなりありました。大学

に進むために家を離れる頃には、両親の教えは私の心の中にしっかりと根を下ろしていました。

私は最初、ハワイのチャーチ・カレッジ（現ブリガム・ヤング大学ハワイ分校）に進み、1964年4月2日に母が死んだ後も少しの間そこにいましたが、（父は私がまだ小さい頃に亡くなっていた）経済的にはすべて母の仕送りに頼っていたため、生活は苦しくなりました。

母の死から数カ月経った頃、私はハワイでの学校生活に物足りないものを強く感じて、他の学校に移りたいと思いました。当時、兄がアリゾナのテンペに住んでいて、アリゾナ州立大学に転学してはどうかと勧められました。転学申請が認められ、私はテンペで1年を過ごしました。1966年、私はソルトレーク・シティーに移って、そこで勉強を続けたいと思いました。ソルトレークに着いてすぐ、私はあるビジネス・カレッジについて調べ、その教育内容にとっても強い印象を受けました。その学校で勉強しようと思いついたものの、手元にはわずか30ドルしかありませんでした。それでも幸いにして、何とか入学の手はずも整い、授業料は1学期の内に分割納入することになりました。そのために私は何とかしてお金を稼ぐ手だてを見つけないければならなく

なったのです。

ソルトレーク・シティーでの最初の1週間、パートタイムでできる仕事を探して、毎日足を棒のようにして歩き回りました。当たってみた先はほとんど常勤の社員を探しているところばかりでしたが、それでも、もしかしてパートタイムの仕事がでてくるかもしれないと考え、何件かの求人に応募しておきました。驚いたことに、面接したいという通知が2、3日の内にどっとやってきました。ところが残念なことに、全部日曜日のお昼から働くという条件なのです。ということは日曜日は、聖餐会に出られないということなのです。

私は随分考えました。お金はのどから手が出るほど欲しい、でも安息日に働くとなれば、それまで幼な子のように忠実に守ってきた主の戒めをひとつ破ることになってしまいます。もし両親が生きていたら、そのような仕事に就くのは決して許さなかったでしょう。それで私は正しい決定が下せるように、ある親友に相談しました。「今まで日曜日に働いたことは一度もない。教会に行けないことを考えると、悩んでしまった。神様の戒めは破りたくないしね。」

彼はこう答えました。「神様は君が何を必要とするか御存じのはずだ。今神様が君に与えようとする仕事がある仕事だけだとしたら、それを選んでもいいと思うけどね。」どうもその答えに私は納得できませんでした。そして彼に聞きました。「もし日曜日に働いて、聖餐会に出られないとしても、神様は大目に見てくれると、君は本

日曜日のクリームサンデー

当にそう思うのか。」

「神様は君の今の状態を心にかけておられるんだ。働いてお金を稼がなくちゃならないのは今なんだよ。そこで働いたほうがいいよ。」

結局私はクリームサンデーなどを売るある店で、レジ係として働くことに決めました。次の土曜日、私はその店に仕事の内容を聞きに行き、翌週の水曜日から働いて欲しいと言われました。しかし月曜日の午後、私はもう一度親友のところへ行きました。

私が「日曜日に働くっていうこと、どうしても、いいことのように思えないんだ」と言うと、彼は厳しい口調で答えました。「それじゃ、一体どうするつもりなんだ。もうすぐ授業料を納めなくちゃならないんだぞ。」

しばらく話した後で、彼はもう一度、そのレジ係の仕事をしたほうが良いと言いました。そして、私も考えてみると答えてはみたものの、どうしても心につかえるものがあるのです。私はその帰り道、この問題は、あとは天父に尋ねるしかないと思い決めました。私がこの安息日の戒めのことでどれほど深く考え込んでいたか分かっていた人はだれもいなかったらうと思います。私はそれまでずっとその戒めを守り続けていたのです。

ひとり、自分の部屋にひざまずき、天父に祈りました。問題についてこと細かに話し、すべてにおいて主のみこころに従いたいという望みを語りました。そして、主の答えがたとえどのようなものであろうとも、それに従う積もりであると、自分の信仰を

言い表わしたのです。祈り終わると、のしかかっていた重荷が取り除かれたように、心がとても軽くなりました。それから、喜びと平安を胸一杯に、学校へ向かったのです。

その日の午後、ある大きな店の店長から電話がありました。何週間か前にその店の求人に応募していたのですが、まだ返事をもらっていませんでした。彼は、私の数学の試験の成績がとても良く、ひとりやめる店員がいるので、その後任として働いてもらえないかと言ってきました。その翌日から、午前中の授業を終えた後に働くことになりました。勤務は週に6日、月曜日から土曜日まででした。

私は受話器を置くと、部屋に走っていき、喜びと感謝の涙にむせびました。そして、再びひざまずき、天父にその祝福を感謝したのです。主は、私が戒めのひとつを破るままにしておかず、別の仕事を与えて下さったのです。

祈りを終え、静かにベッドの上に座っていた時、ひとつの言葉が心の中に、くっきりと描かれた文字のように浮かんできました。「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」その言葉は繰り返し繰り返し私の心に浮かびました。

主は御自身が定められた戒めに関して、決して妥協することがないということを私は知りました。主は私たち一人一人の必要を満たすために、御自身のみこころにかなった正しい方法で、道を備えることができます。またそうして下さる御方なのです。主にとって不可能なことは何もありません。



メアリー・エレン・エドマント

私が伝道に出たいと言った時、それを聞いた人は皆驚きました。看護学の学位を取得し、ブリガム・ヤング大学を卒業して間もない時で、看護婦として働いてみないかと幾つか素晴らしいところからの誘いもありました。私は姉妹宣教師に対してある種の偏見があることを知っていました。女性が伝道に出るのは、何もほかにすることがなくなった時だと考えているような人々がいたのです。それでも私の伝道への望みはとても強いものでした。

私はこれまで20年、この偏見について真剣に考えてきました。ソルトレーク・シティの伝道本部で教えていた時、何百人という姉妹宣教師が入所してくるのを目にし、彼女たちがどのようにして障害を克服してきたのか、素晴らしい話を耳にしたことも何度かあります。障害のほとんどは、「本当はそんなに伝道に出たいなんて思っていないでしょう」とか、「そんなこと、ほかに何もすることのない人がするものよ」といった周囲の人々の心ない言葉でした。

今はプロボの宣教師訓練センターにいますが、毎週大勢の姉妹宣教師が入所してきます。彼女たちほど美しく、活気にあふれ、そつめい聡明な女性のグループは、世界のどこを探してもないと思います。

女性は宣教師として素晴らしい働きをすることができますし、現にしています。彼女たちは教師、看護婦、家政学の専門家、栄養士、秘書、詩人、学生などの経歴があります。多くが高度の教育を受け、実社会で働いた経験を持ち、分別を備えています。そして、他の人とうまく力を合わせて働く能力も持ち合わせています。彼女たちの、目的に対する^{いしん}真摯さは、伝道に必要な霊性の向上を促します。ですから、姉妹宣教師たちはみたまに対して敏感であり、みたまの導きにすぐに反応を示します。

姉妹宣教師はその経験と専門的な知識、技術を用い、全世界の教会を確立し、強めていく助けをすることができます。宣教師は皆、教会に関心を持つ人々を見いだし、教育する責任を持っていますが、姉妹宣教



私は伝道に出る前に、伝道は人を変える、ひとたび伝道に出れば、それまでとは全く別の人間になる、と聞かされたことがあります。私は今、その意味がよく分かります。私が台湾、また香港、フィリピン、インドネシアで出会い、愛した人々は、私の人生を変えてきました。彼らは私に新たな心を与えてくれたのです。

私に最も大きな影響を及ぼした人として、ひとりの人を挙げることはできません。私の伝道生活は、出会った人々、体験した数数の事柄すべての集積です。それでも、1964年のある朝のことは特に強く心に残っています。私は同僚のメアリー・ジェーン・デビッドソン姉妹と、フィリピンのケソン・シティの担当地区で、良い結果が出るのを楽しみにしながら、朝のチラシ配りをしていました。私たちはその前から、イエス・キリストの福音を求めている人を見いだせるように導きを祈り求めていたのです。舗装されていない道路を歩いていると、オレンジ色のドアに“15”とペンキで書いた建物が目に入ってきました。私たちはそのドアをノックしてみたいという気持ちに駆られました。

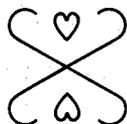
ノックに答えて出てきたのは、柔和な顔付きの年老いたフィリピン人でした。私たちは簡単に教会のことを紹介しましたが、オカンボという名のその老人はあまり気乗りのしない様子でした。ところが、私は、彼はこのメッセージを受け入れるという強い気持ちを感じたのです。それで私たちは、神様について素晴らしいメッセージを伝える機会が与えられれば、こんなうれしいこ



とはないと言いました。

彼が言うには、それまでも多くの宣教師が来たが、だれも家の中には入れなかったということでした。この時も、あまり気が進まなかったのですが、最後には私たちを家の中に入れてくれました。私たちは彼にジョセフ・スミスの物語を教えるべきだと強く感じました。それまでフィリピンで会った人は大概流ちょうな英語を使っていましたが、彼の英語はそれ程ではありませんでした。それで私たちはゆっくりと話しました。私たちの話が終わると、彼は深く考え込んだ様子をし、静かな声で尋ねてきました。「この素晴らしい話をもう一度していただませんか。」

2度目に読んだ時は、私たち自身もその物語に、前にも増して強く心を動かされました。2度目を終えた時も、彼は強い感動



「マーケットへ行く前に、……家族のために一番よい物を買えるように助けて下さいと、……天のお父様にお祈りをします。」

を受けた様子でした。そして、本当にすまなさそうに、「もう一度だけお願いできないでしょうか」と言ったのです。3度目の時私たちは、ジョセフ・スミスは予言者であり、確かに天父と御子にまみえたという聖霊の証が一人一人の上に、前にも増して心地よく、そして強く注がれるのを感じました。

1週間後の2回目のレッスンの時はバスが遅れ、オカンポ兄弟は家の外に出て待っていました。「来てくれないのかと思いましたよ。お聞かせしたい素晴らしいことがあるんです。」

彼は第1回目のレッスンの後で、私たちが置いていったジョセフ・スミスの証のパンフレットを、一語一語辞書を見ながら読んでいたのです。家の中へ入る手前の所で、彼は私たちにジョセフ・スミスの物語を語り始めました。彼がバプテスマを受けたのは、それから間もなくのことでした。

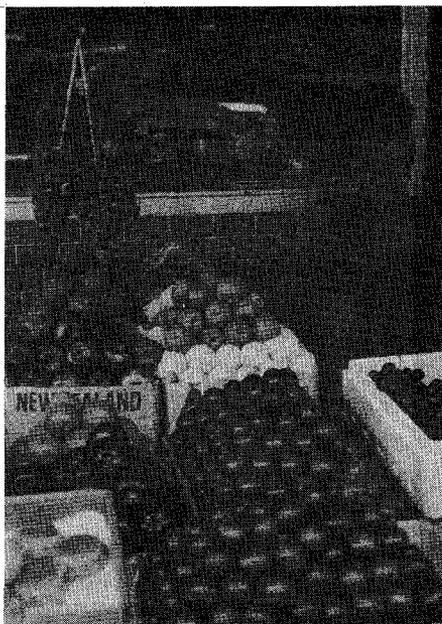
ジャワ中部のスマラン支部のサマド支部長も忘れ難い人物です。私と同僚は、彼が支部の人々をさらによく指導し、教えることができるように、その助けをする責任を与えられました。当時インドネシア語に翻訳されていた伝道用や訓練用の資料はごくわずかでした。

私たちは日曜日毎に約50分、サマド支部長と集会を持ちました。彼からは、断食献金、教師養成、それに福音に関連した事柄を教えて欲しいと要請があり、私たちもイ

ンドネシア語を自由に使いこなすことはできませんでしたが、最善の準備をしました。その集会は必ず祈りで始めました。祈りが終わると、彼はきまってこう言いました。

「姉妹たち、皆さんが準備したものを、最善を尽くして、私に教えて下さい。途中で時々、私がストップをかけます。それから、そのことに関してみたまが私に教えてくれることをお話します。」そして、実際その通りのことが何度もありました。これらは私の人生の中で最も霊的な体験でした。

貧しい暮らしをしていたある姉妹が、私にこう言ったことがあります。「姉妹、私たちも神殿に行けるように準備をします。」何と答えたらいいのかわかりませんでした。一体どうしたらその目的を達することができるのか、私にはとても考えられませんでした。当時、東京に神殿が建築中でしたが、強いて最寄りのといえば、その東京神殿がそうだったのです。彼女はこう続けました。「家にある不必要なものをすべて売れば……」そこまで聞いて、私は何度か訪問したことのある彼女の粗末な家を思い浮かべ、不必要な物も売るといっても、一体何があるのかと首をかしげてしまいました。「それから、どんなわずかなお金も儉約して貯金すれば、55年後には神殿へ行けると思えます。」私は感動して、胸がいっぱいになり、何も言えませんでした。そして彼女はこう付け加えました。「姉妹、そうすると私はまだまだ長生きしないと。だって55年経った



ら、私 110 歳よ。」私は今プロボのオフィスでこの一文を書いています、家の外に目を向けるだけで、彼女があれほどまでにあこがれていた神殿を見ることができるのです。

ある扶助協会の指導者がいて、私たちは彼女と訪問教師の件について話し合いを続けていました。姉妹たちとの連絡という点について話し合っている時に、彼女がすまなさそうに言いました。「姉妹、この支部の会員はだれも電話を持っていません。ですから、だれが助けを必要としているかは、天父にお尋ねするしかないのです……」彼女はいろいろな実例を出して説明してくれました。彼女はいつも朝、だれか自分の助けを必要としている人がいないか教えて下

さいと主に祈ったそうです。そして、だれそれを訪問しなければならぬと、強い気持ちを感じたことがよくあったそうです。時によっては、食べ物などを届ける必要があると強く感じたこともあると言います。私は彼女の話聞いて、電話で真のコミュニケーションを妨げてしまったことが随分あったのではないかと考えさせられてしまいました。

ある時、栄養と食事ということについて話し合っていた時、ある穏やかなフィリピン人の姉妹が私に言いました。「御存じだと思いますが、私のところには欲しいと思うものを何でもそろえる経済的な余裕はありません。ですから、マーケットへ行く前に、わずかなお金を賢く使って、家族のために一番よい物を買うように助けて下さいと、ひざまずいて天のお父様にお祈りをします。食事の材料を買い込んで家に帰ってからも、それをうまく料理できるようにと祈ります。それから食事という段になります。そこで、買いそろえ、料理した物が家族の体を強め、健康の維持に役立つものとなるように祝福して下さいと天父に祈るのです。」私は思いました、自分は食事の時に、何度形だけの祈りをしてきただろうかと。

中部ジャワに、毎朝食事の準備をする前に、一人一人の姉妹がスプーン一杯の米を蓄えるようにしている扶助協会がありました。日曜日にはそれをプラスチックの容器に入れて、扶助協会の集会へ持って行きます。そして、だれか病気で寝込んでいたり、長い間教会に顔を見せない教会員がいたりすると、集会の後、姉妹たちが全員でその

ホームティーチング という名の 伝道活動

ジェイ・A・パリー

ある長老定員会の会長が、「私たちの定員会には素晴らしい人がいっぱいいます」と言いました。ただし、その後があるのです。「でも、彼らの中のある人たちは教会をさほど重要なものと思っていないんです。」彼は深く考え込むようにして言いました。「彼らの心を動かす方法が何かないでしょうかねえ。」

彼が語った言葉は、教会の至る所で聞かれます。どこのワード部、支部にも、教会に来ていない会員がいます。またどのワード部、支部にも、そういう兄弟姉妹の生活を変えるための方法が何かないかと考えている指導者がいます。

これは現在の教会だけの問題ではありません。イエスは失われた羊、失われた銀貨、失われた息子などについて話をされました。かつては共にいたものが、失われてしまったのです。これらのたとえ話に添えて、救い主は質問の形で、私たちにひとつの責任を与えられました。

「あなたがたのうちに、百匹の羊を持つ

ている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。……

また、ある女が銀貨十枚を持っていて、もしその一枚をなくしたとすれば、彼女はあかりをつけて家中を掃き、それを見つけるまでは注意深く捜さないであろうか。」

(ルカ 15：4，8；15章全体も参照)

私たちの責任ははっきりしています。また、主はその責任を果たすための手段も与えて下さいました。それがホームティーチングです。ハロルド・B・リー長老は1964年にこう言っています。「伝道活動はまだ教会員となっていない人々に対するホームティーチングに過ぎません。また、ホームティーチングは教会員に対する伝道活動にほかならないのです。」(Conference Report「大会報告」1964年10月)

再活発化をはかるための活動について述べた、素晴らしい説教の中で、十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老は、

教会員でない人々への伝道と同じように、「活発化には改宗が必要です」と言っています。また、定例の定員会集会や日曜学校のほかにも方法があると指摘しています。

「調査によりますと、このセミナーへの誘いを受けた人の30パーセントが誘いに応じています。もうひとつ忘れないでいただきたいのですが、これも過去の経験から、適切なアプローチを受けた人は10人中8人までが、神権指導者の訪問を受け入れ、家庭で教えるようになります。兄弟の皆さん、こうした現実があるとすれば、何を恐れる必要があるでしょうか。

こうした喜ばしい統計からお分かりのように、大切なことは時機をうかがって手をこまねているのではなく、何かを行なうことなのです。兄弟の皆さん、率直に申し上げますと成果が得られないというのは、何もしようとしていないということです。ある木彫りの名人が、どうしたら木彫りが上手になれるかと尋ねられて、ぶっきらぼうにこう答えました。『彫り始めることさ。』兄弟の皆さん、とにかく彫り始めようではありませんか。』（『傷ついた兄弟』『聖徒の道』1982年7月号、p.68）

これは大きなチャレンジです。しかし、ある指導者やホームティーチャーたちは実際に「彫り始めて」います。自分の管理下にある会員たちに対する働きかけを押し進めることによって、彼らは以前は考えられなかったほどの進歩を見せています。

幾つかのステーク部を含むある地区では、定員会の指導者やホームティーチャーが教会に来ていない会員の500軒以上の家庭を訪問しました。そのほとんどは以前、神殿

準備セミナーへの出席の誘いを断わっていた人々です。指導者たちは彼らにこう言いました。「あなたの家庭にこれらの優秀なホームティーチャーを週に1度来させて、福音に関するレッスンを受けてみませんか。圧力をかけたり、何かをするよう求めたりは決してしません。私たちはただ福音の原則を説明するだけで、決定は、あなたと御家族のなさることです。」

答えは果たしてどうだったでしょうか。呼びかけを受けた家庭の80パーセントが、この申し出を受け入れました。ホームティーチングという伝道活動を通して、400家族がその祝福を受けました。そしてこのような成功例が増加してきています。

教会に来ていなかったある長老は、1週間のほとんどを仕事で留守にし、家にいるのは大概、土曜の夜と日曜の日中だけでした。それでも彼は、週に1度のホームティーチングのことを言われた時、それを承諾したのです。土曜の夜の最初のレッスンを受けた後で、彼は翌日の教会の集会に出る決心をしました。そして今では長老定員会の会長会の一員として働いています。

別の家族の場合ですが、その父親はアルコール中毒でした。彼は1週間に1度のこのホームティーチャーの訪れを受け入れ、奥さんや子供も段々と教会に足を向けるようになりました。その父親はまだ長老見込み会員ですが、格段の成長を遂げました。また、このホームティーチングを通して再び活発になったこの家の長男は、今専任宣教師として働いています。

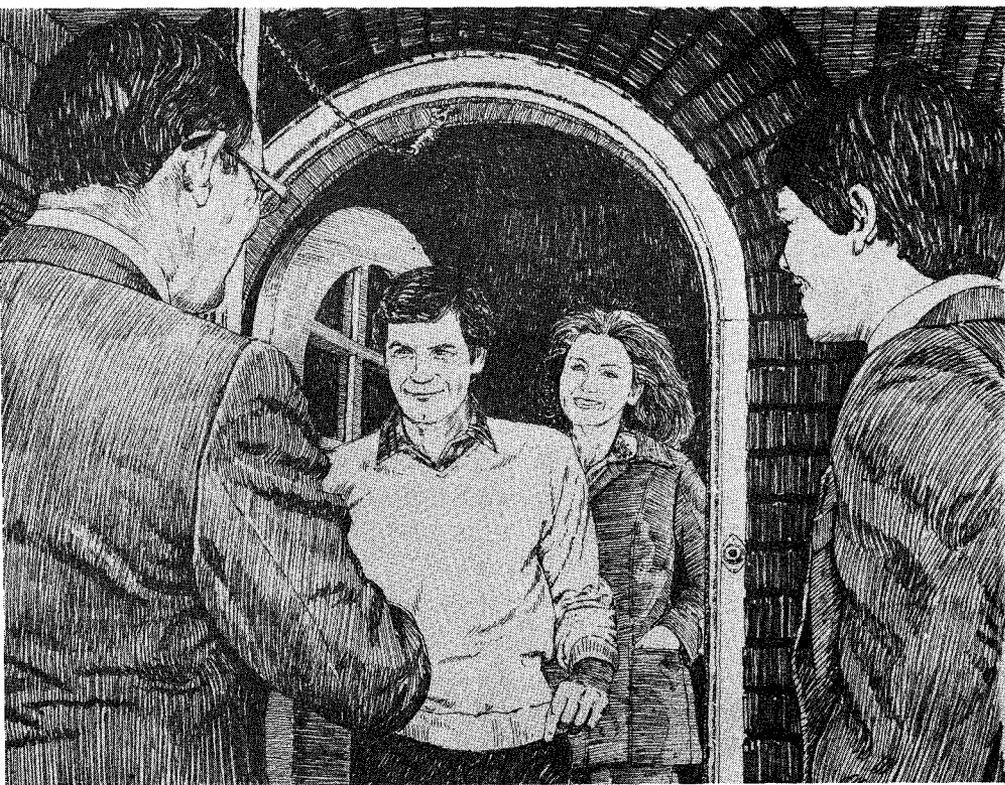
ある若い夫婦は、神殿に入るのを感じてはいたのですが、進んで神殿準備セミ

ナーを受けようというところまでは、いっていませんでした。しかし、彼らも週に1度ホームティーチャーが来て、レッスンをするという申し出を受け入れました。今その若い夫はこう言っています。「反抗するつもりはありませんでした。ただ、福音について何も知らなかったんです。」ある時、彼はホームティーチャーに、「おふたりがそれぞれに御家族を持って、忙しい生活をしていることは知っています。我が家に来て下さることを本当に感謝しています。このレッスンは私たちに必要なものです」と

言ったそうです。

ほかにも紹介できる例は、何千、何百とありますが、これらの成功例にはひとつの共通した要素があります。大切なのは、彼らに知って欲しいと思うことをすべて教えるのではなく、彼らに受け入れる気持ちがあり、聞くことのできる事柄を教えるところから始めるということです。

そのふたつの差は非常に大きなものです。家族の受容能力以上に教えるなら、恐らく、^{ほん}芳しくない結果を招くことになるでしょう。その家族は自己弁護的になり、私たちの言



葉にそっぽを向き、レッスンを受けたくない」と拒絶してくるでしょう。レッスンの内容は伝わらず、心の中にみたまの証が与えられる機会も失われ、教える機会そのものがなくなってしまいます。

教会に顔を見せていない会員にアプローチする時のホームティーチングを成功させる上で基本となるステップを挙げてみたいと思います。

1. レッソンを準備する時、また実際に行なう時に、みたまの導きを祈り求める。自分が教える事柄をみたまに証してもらうことより重要な要素は他にありません。私たちは「聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうか」を知るのです。(モロナイ 10:5)

2. 訪問先の家族に、何かをするように強く迫るようなレッスンは決してしないという点をよく理解してもらう。レッスンを受ける気持ちがあるかどうかを最初に聞く時にそのことを話す。後になって、何かチャレンジするようみたまがささやく時があるかもしれません。しかし、もし機が熟し、そういうささやきがあったとしても、それはずっと後のことです。ともかく当面は、押し付けがましいやり方はないということ、はっきり知らせておく必要があります。例えば、次のように言うてみてはどうでしょうか。「ブラウン兄弟、今晚はひとつお願いがあって参りました。多分兄弟も興味を持たれることと思います。私たちはふたりで、週に1度、お宅へおじゃまし、福音に関するレッスンをさせていただきたいのです。このレッスンは強引なチャレンジをしたり、過度な期待をかけたりするこ

とはありません。私たちは福音の原則について話すだけで、それについてどう応じるかは、全く皆さんの自由です。」

ある定員会の指導者は、この方法を用いて相手から断われたことはほとんどなかったと言っています。「まず第一に、私は最初のアプローチは必ず夫婦がふたり共いる時するようにしました。片方しかいない時はレッスンのことは話さず、あらためて訪問させていただきたいと言いました。

それからもうひとつは、相手が即座にノーという返事をしてこないように、予防線を張っておくことです。ホームティーチャーはいらないと言っていた兄弟を訪問したことがあります。私は彼に、毎週訪問して彼と家族にレッスンをさせて欲しいがどうかと尋ねました。それを言い終わらない内から、彼がノーと言おうとしているのが分かりました。それで私は、彼がそれを口にする前に、来週また来るので、簡単に結論を出さないで、それまでよく考えて欲しいとだけ言いました。

翌週、再び訪問しました。彼は私を見て驚いたようでした。第1回目のレッスンのことを少し話しましたが、やはり彼が断わろうとしているのはすぐ分かりました。私はそれで彼の返事を待たずに、1週間後にまた来るから、もう少し考えて欲しいと言いました。

その次の週も結局同じことの繰り返しでした。これでは何の進歩もないと思い始めました。ところが、次の週、彼は私が訪問するのを待たずに、自分から電話をかけて私を招いてくれたのです。

1回目のレッスンを終わった後で、彼の

奥さんが涙を浮かべながら私に言いました。
『初めてです。マックが教会に関心を向けてくれたのは。』』

3. このホームティーチングの次の段階

で注意すべきは、担当家族の生活の悪い点をチェックし、特にそこを強調したレッスンを行なうようなことは避けなければならないということです。家族が何か問題を



ホームティーチャーと担当家族の間

の心の通い合いは、レッスンの中で

使うどんな資料よりも大切です。

持っていることが分かって、その問題についてどうこう言うてはなりません。しばらくは、それが大切です。ほとんどの人は、自分が間違っただけを承知しているのです。そういう点を批判しても、彼らを強めることはできません。そうではなく、他の方面に力を注ぎ、彼らがみたまの示しを受けるに任せるのです。

ある長老見込み会員の例を挙げてみましょう。彼は教会へ行くことを拒んでいました。タバコをすっていたからです。「教会がそんなに大切だとは思ってもみませんでした」と彼は言っています。それでも彼とその奥さんは、ホームティーチャーの週に1度の訪れとレッスンを受けることにしたのです。数週間後、彼が自分からその問題を持ち出すまで、ホームティーチャーはそれについてはひと言も言いませんでした。

3カ月後、この夫婦は神殿準備セミナーに出席するようになり、今では毎週、教会に来ています。タバコとの格闘はまだ続いています。彼はホームティーチャーとしての召しを引き受けています。彼は今や、「教会が聖徒を整えるためにあること」また、「すでに完成の域に達した人が休息する何もかも整った施設ではない」ことを理解しています。(ニール・A・マックスウェル『傷ついた兄弟』「聖徒の道」1982年7月号, p.69)

質問攻めのレッスンも避けなければなりません。教会に来ていない会員の多くは、

福音に関する質問をされると、居心地の悪さを感じるものです。ですから、逆に、聞きたいと思っていることはどんどん質問するように促しながら、講義形式でレッスンをするのが望ましいと言えます。(視覚資料をよく使うと、レッスンが面白くなります)

5. 訪問した先の家庭を管理するのは、その家の父親であることを忘れないで下さい。その家庭で開会や閉会の祈りをする人を決める権能を持つのは父親です。父親は準備ができていれば、自分で祈ることもできます。父親が自分からするようになるまで、ホームティーチャーは、その権能を行使するよう父親に促していくべきです。

6. 担当家族の受容力以上のことを教えるてはなりません。教えている家族が何を必要としているかについてだけでなく、みたまのささやきにも敏感な教師は、家族がレッスンに心を閉ざしているかどうかを見極めることができます。教える内容は福音の基本原則にとどめておくのが賢明です。あるホームティーチャーたちは、初めの2, 3回は根本的な原則を教えるのがよいと言っています。例えば、救いの計画、イエス・キリストの贖い、また、啓示はどのようにして与えられるか、神の律法と従順がもたらす祝福、背教と福音の回復、モルモン経などのテーマです。「神殿準備セミナー」「福音の原則」「福音の基礎」などのテキストには、これらの基本原則を教える際に役立つ資料が多く含まれています。

この方法によるホームティーチングには持続性
があるのです。1度レッスンを始めるようにな
ると、途中でやめる人がほとんどいません。

7. 家族に何かをするよう強引な約束を
させてはいけません。ジョセフ・スミスは
「私は人々に正しい原則を教え、人々に自
らを治めさせる」と言いました。ホーム
ティーチャーも教会に来ていない家族に対
して、教え、証をし、これと同じ方法を用
いることができます。後にその家族が成長
し、進歩するようになってから、聖霊が目
標の設定を提案するようささやくことがあ
るかもしれませんが、どういう目標にする
かは、彼らの決定に任せるのが普通です。

ユタ州に住むある長老見込み会員は、祈
りを頼まれたり、質問をされるのがいやで、
教会に行くことを恐れていました。彼は2
カ月間ホームティーチャーのレッスンを受
けましたが、その後で夫婦で神殿準備セミ
ナーへの誘いを受け入れました。そして、
まだ夫の方には恐れる気持ちがありました
が、間もなくふたりは教会に出席するこ
とを自分たちの目標として定めたのです。そ
れは彼ら自身の決定であり、福音を学ぶこ
とによって得られた成長の結果でした。彼
は現在、長老の職に任じられ、神殿で夫婦
の結び固めを受けています。

8. 教義と聖約第4章6節で、主がその
僕に与えられた勧告に従って下さい。「信
仰、徳行、知識、節制、忍耐、兄弟の親切、
敬虔、慈悲、謙遜、勤勉などの諸徳を忘る
ることなかれ。」

この勧告に従うホームティーチャーは、
統計の数字やそれに類する事柄よりも、担

当する家族の必要に心を向けるようになる
でしょう。遅々としたペースの変化にも心
を寛大に保ち、また、性急さの中からは自
分が望む永続的な結果は得られないという
認識を持って、愛と犠牲の業に献身するよ
うになるでしょう。

9. 最後に、ホームティーチャーと担当
家族の間の心の通い合いは、レッスンの中
で使うどんな資料よりも大切であることを
忘れないようにして下さい。知識よりも親
密な結び付きの方が大切なのです。

お互いの関係があまりよくいってない夫
婦がいました。そのふたりが、毎週ホーム
ティーチャーの訪問を受け、レッスンを聞
くことになりました。そして、ホームティー
チャーの訪問が重なるにつれ、次第にふた
りの仲は修復されていきました。奥さんの
方が後でこう言ったそうです。「ホーム
ティーチャーが来て下さっている時の夫は、
世界で最高の男性に見えます。今後も40年
は続けていただきたいと思います。」

この方法によるホームティーチングの素
晴らしさは、担当家族の実情に合わせるこ
とができるという点です。何年も前に他の
教会員の言葉に深く傷つき、教会の教えは
何ひとつ聞きたくないというひとりの兄弟
がいました。「教会の人間は皆偽善者だ」と
彼は言いました。彼の家を訪問していた定
員会の指導者はそれにうなずきも、反論も
しませんでした。こう言いました。「私も
今までの人生の中で、不正なこと、理不尽

「ホームティーチャーとしての責任は私の生活を全く変えてしまいました。私はこういう人間になりた
いというひとつの理想像をいつも持っていましたが、
今それに近づきつつあることを実感しています。」

なことを何度か見てきました。時々そういうことがあります、悲しいですね。」

この指導者の言葉に彼はびっくりしました。そしてふたりのホームティーチャーを家の中に入れ、それについて話し合ったのです。

このホームティーチャーはこう言っています。「私たちは、彼が心の中にためていたものをすべて出し尽くすまで、じっと耳を傾けました。それから、特定の教会員の行動には触れないように注意しながら、全てを包み込む救い主の愛と赦しについて話し合いました。私たちは彼に、あなたは人を赦す能力を伸ばす素晴らしい機会を手に行っているのです、と言いました。彼の家を出る時に、またおじゃまして、福音の教えについて話し合いたいと言うと、彼はいつでも歓迎するから来てくれ、と返事をしました。」

このホームティーチャーは以来、何度も彼の家を訪れ、彼が考え方をすっかり変えていく姿を目の当たりにしました。

教会に来ていない会員たちに対して行なわれたホームティーチングがすべて劇的な成功を収めたわけではありません。しかし、特筆すべきことがあります。この方法によるホームティーチングには持続性があるのです。1度レッスンを始めるようになると、途中でやめる人がほとんどいません。活発に教会に集うようになるか、ならないかは

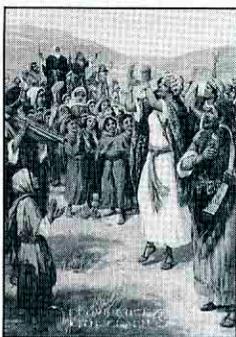
ともかく、これを受ける人々はその生活を向上させていくことでしょう。

有能なホームティーチャーは人々の生活を変えることができます。福音を学ぶ家族は、人生の決断の時の基準とすべき、神が授けて下さった知識を蓄えていくでしょう。ホームティーチングにあずかる人々の心と家庭の中には神のみたまが注がれるのです。そして、家族はかつてなかったほどに愛され、受け入れられるという思いを強くしていくことでしょう。

また、この方法によるホームティーチングは、ホームティーチャー自身にも大きな影響を及ぼすはずで、最後に、あるホームティーチャーの言葉を紹介します。「問題や試練が出てくるかもしれませんが、でも、頑張り通して、担当する家族の力になりたいという気持ちを彼らに分かってもらうのです。そうすれば、彼らは成長していくと思います。効果的に教えるためには、時間と努力が必要です。しかし全力を尽くしてホームティーチングを行なう人は、みたまの導きを目の当たりにすることができます。誇張するつもりはありませんが、ホームティーチャーとしての責任は私の生活を全く変えてしまいました。私はこういう人間になりたいというひとつの理想像をいつも持っていましたが、今それに近づきつつあることを実感しています。」

聖典の中の女性たち

キャサリン・エルストラム



聖典に登場する女性たちについて、だれがどのような人であったか知っていますか。次に挙げるヒントを読んで歴史上のヒロインたちの名前を当て、自分の知

識を試してみてください。それぞれの質問において、ヒントAが最も難しく、Cが一番易くしてあります。ヒントはABCの順に読んでいきますが、現在読んでいるヒン

ト以外は、見えないように隠しておきます。

正解を得るまでに、幾つのヒントを使ったかによって得点が決まります。配点は次の通りです。ヒントAのみ=3点、ヒントAとB=2点、ヒントAとBとC=1点。間違っただけの場合は、上記の配点に従って減点し(例えば、ヒントAとBを使って間違っただけの場合は2点減点というように)、次の質問に進みます。減点を避けるためには(もちろん、あえてやってみようとする場合は別ですが)自分の答えに確信が持てない場合、必要なだけヒントを使って確かめた方がいいかもしれません。とにかく総合で何点得点できるかはあなたのやり方次第なのです。もしあなたの得点が36点満点であれば、聖典の中の女性に関するあなたの知識は素晴らしいものです。12点あるいはそれ以下であれば、魅力あるこれらの女性たちについてもっと良く知るように努力したいという気持ちになるかもしれません。

このクイズをチーム対抗で行なう場合は次の方法で行ないます。どちらか一方のチームがヒントAを読んだ後、間違っただけの答えを言ったり、答えられなかった場合、相手チームにチャンスが回ってきます。もしその相手チームも間違っただけの答えを出した場合は、最初のチームは次のヒントに進みます。正解が出るまで相手チームとこの方法を繰り返します。

1.

- A. 私の名前は聖書とモルモン経の両方に出きます。
- B. 天の御使いが私は特別な子供を産むだろうとお告げになりました。
- C. 私は救い主の母です。
(マタイ 1:16, 18-25; ルカ 1:27-56; 2:5-19; I ニーフアイ 11:13-20; モーサヤ 3-8; アルマ 7:10)

2.

- A. 私は女預言者でしたが、主に選ばれた指導者を非難したためにらい病になって苦しまなければなりませんでした。
- B. イスラエルがエジプト軍から解放された時、私はイスラエルの女たちを率いて共に喜びの歌を歌いました。
- C. 私は、ナイル川に浮かべたかごの中の私の弟が、パロの娘に発見され、引き取られるまで、彼を見守っていました。
(出エジプト 2:3-10; 15:20-21; 民数 12:1-15)

3.

- A. 私の名前は聖書とモルモン経と高価なる真珠の中に出きます。
- B. 私は神と語り、神と共に歩みました。
- C. 私はこの地上における最初の女性です。
(創世 1:28-30; 3:7-16, 20; I ニーフアイ 5:11; II ニーフアイ 2:19; モーセ 4:12-14, 22, 26; 5:4)

4.

- A. 私は、教義と聖約に名前が登場する最初の女性です。(他にはあとひとりだけです)
- B. 私は「選ばれし^{おんな}婦」と呼ばれました。
- C. 私はこの末日の神権時代に、神の預言者と結婚しました。
(教義と聖約 25:1, 3, 5)

5.

- A. 私は「年老いて」、天使から特別な子を授かるという約束を受けました。
- B. イスラエルの祭司である私の夫は、主の聖所で祭司の務めを行っていた時、示現を受けました。
- C. 私の息子は救い主の道を備える者として召されました。

(マルコ 1 : 2 - 3 ; ルカ 1 : 5 - 22)

6.

- A. ダビデ王と救い主は私の家系から出ました。
- B. 夫が亡くなった時、私はしゅうとめと共にベツレヘムに移りました。
- C. 私はしゅうとめに「わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります」と告げました。
(ルツ 1 : 4 - 7, 16 - 19 ; 4 : 17 ; マタイ 1 : 5 - 16)

7.

- A. 私は父が見た不思議な示現によって福音に改宗しました。
- B. 私は主の「みたま」に満たされて地に倒れた私の女主人を起こしました。
- C. 私はレーマン人の王の^{きさき}后に仕える^{しもめ}婢でした。
(アルマ 19 : 16 - 18, 28 - 29)

8.

- A. 私は貧しい人々を助け、施しをするなど、数々の良い行ないをしました。
- B. 私はキリストの弟子でした。
- C. 私は使徒ペテロによって死からよみがえりました。
(使徒 9 : 36 - 41)

9.

- A. 私は夫と共に新天地に出発するため、家や友人を捨てました。
- B. 私は夫に、彼が^{まぼろし}幻に耽る人であり、そのために息子は死んでしまい、自分たちもこの荒野で死んでしまうなどと不平を言いました。
- C. 約束の地で私の子供たちは、敵対し相戦うふたつの民に分かれてしまいました

た。

(I ニーファイ 2 : 4 - 5 ; 5 : 1 - 3 ; ヤコブ 1 : 13 - 14)

10.

- A. 私はペルシャとメデアの王妃となったユダヤ人の少女です。
- B. 聖書の中の一書は私の名前で呼ばれています。
- C. 私は自分の命を賭けて、私の民が減ばされる^かところから救いました。
(エステル 2 : 5 - 7, 10, 17 ; 7 : 3 - 6 ; 8 : 3 - 17)

11.

- A. 私は神の「みたま」に満たされて地に倒れ、死んだように横たわっている夫の傍らに^{しもめ}まる 2 日間付き添っていました。
- B. 主の御使いから福音を聞いた時、私も「みたま」に満たされ、あたかも死んだかのように倒れてしまいました。
- C. 福音に改宗していた私の婢が私を起こしてくれました。
(アルマ 19 : 2 - 5, 11 - 12, 14, 29 - 30)

12.

- A. 救い主は私から 7 つの悪霊を追い出して下さいました。
- B. 私はイエス様が復活なさったことを弟子たちに告げましたが、彼らは私を信じませんでした。
- C. 私は復活後のイエス様を見た一番最初の人間です。
(マルコ 16 : 9 - 11 ; ヨハネ 20 : 1 - 2, 11 - 18)

☞ 正解は 37 ページの右下にあります。

祝 福 師

十二使徒定員会会員 ジェームズ・E・ファウスト

祝 祝福師の祝福は、その本質と重要性を理解するに十分な力を備えた教会員に与えられる、類^{なぐい}無い素晴らしい特権です。この特別な恵みは、すべての人に救いを得させようとする主イエス・キリストの使命をはっきりと証しています。

他の多くの祝福同様、祝福師の祝福も、それを望む個人、家族からの求めがあって与えられるものです。祝福師の祝福に対する責任は、おもに個人と家族に課せられています。

私たちは自分に与えられた祝福師の祝福を読み返す度に、証を強く確かなものとし、より大きな人生の目的を持つことができます。当然のことながら祝福は、祝福文そのものの中に明記されているいらないにかかわらず、すべて一定の条件を伴います。受ける人の忠実さという条件付きで与えられるのです。

現在は世界の多くの国々にシオンのステーキ部が広がり、ほとんどのステーキ部に少なくともひとりの祝福師が置かれています。この成長によって、祝福師の祝福にあずかる特権が、数多くの人々に飛躍的な

勢いでもたらされつつあります。

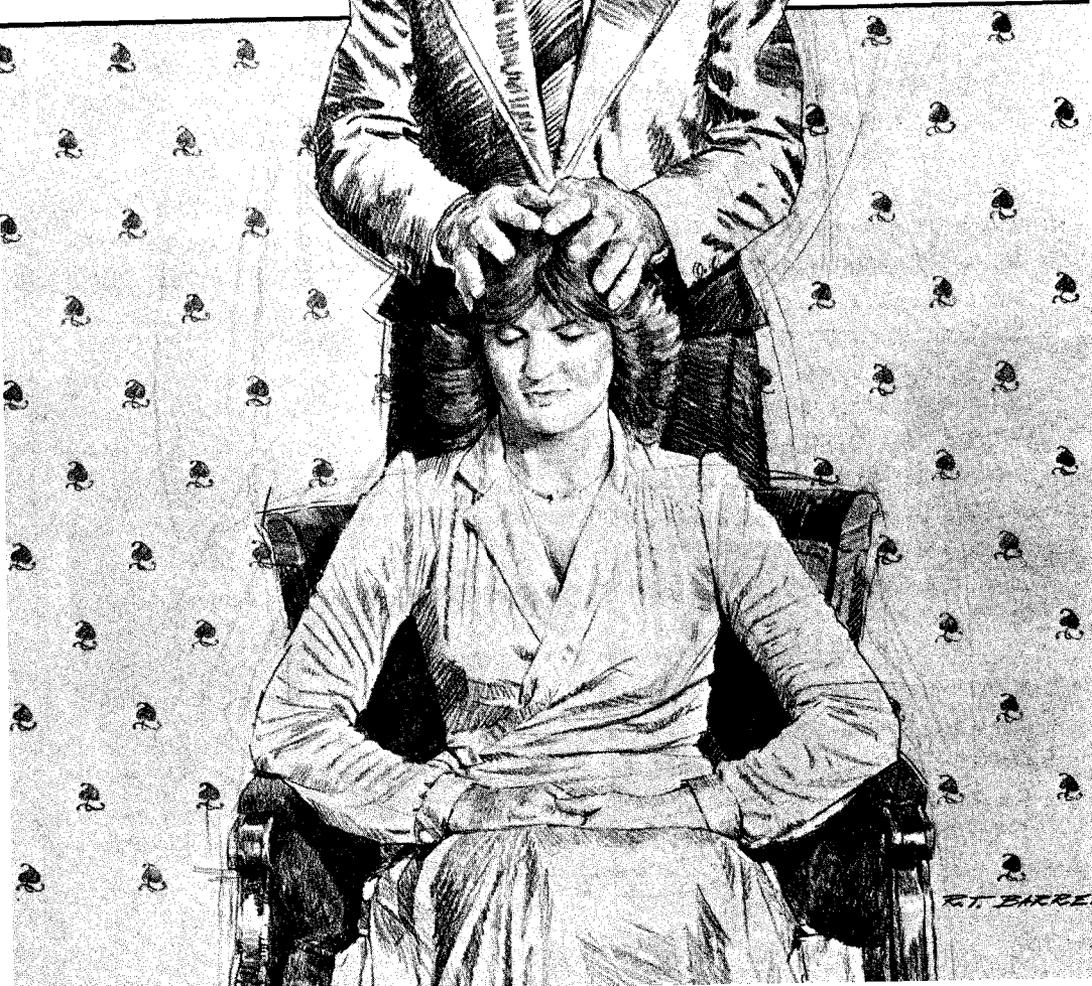
祝福師



祝福師という大いなる召しに聖任されている忠実な兄弟たちに賛辞を呈したいと思います。彼らの多くは、教会の中でも特に謙遜で信仰深い

人々です。この選ばれた人々は、神の靈感を受けるにふさわしい生活を送っています。祝福師は主に代わって語る権能を授けられており、その儀式を受ける人に祝福が授けられるよう主に求めるだけというよりも、直接祝福を授ける特権を有しているのです。祝福師の責任はメルケゼデク神権の重要な職のひとつですが、教会員を管理指導するためのものではなく、祝福を与えるためのものです。神聖で崇高な召しであり、終世続くのが普通です。祝福師たちはその召しのためにすべてを捧げ、靈感が与えられるよう、忠実で高潔な生き方をすべく、最大限の努力をしています。

の 祝 福



祝福



祝福師は靈感のままに、祝福、霊的な賜、約束、勧告、訓戒、警告などを授けますが、聖きみたまの促しを感じた時には、それらに加えて、

血統の宣言をします。それは本質的にひとつの予言ということが出来ます。

祝福師の祝福は謙遜に、また祈りの気持ちで、何度も読み返すべきものです。祝福師の祝福は極めて個人的なものです、家族に見せることはかまいません。これは主が与えて下さった勧告、約束、知識であり、私たちを導く神聖な指針です。しかし、将来我が身に起こることを細かに述べ、すべての疑問に答えを与えてくれるものと期待すべきではありません。伝道や結婚などの人生の大事に関する祝福の言葉がなかったとしても、決してそれらの祝福にあずかれないというわけではありません。私が受けた祝福は短いもので、祝福文は1枚の紙の、片面の4分の3程度です。それでも私にとってはまったく申し分のない、完全なものです。

ヒーバー・J・グラント大管長が、自分が受けた祝福師の祝福の長さについて語った言葉を見てみましょう。「その祝福師は私の頭に手を置くと、短く祝福の言葉を述べました。タイプライターで打って、3分の1ページぐらいのものです。その祝福は今に至るまで、私の人生を予言してきました。」

た。」(ジェームズ・R・クラーク編, *Messages of the First Presidency of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*, Bookcraft, 1965-76, 5:152)

祝福の成就



ジョン・A・ウィッツオー長老は次のように言っています。「与えられた約束の実現は現世だけでなく、来世でもあり得ることをいつも心に

留めておかなければならない。約束された祝福が現世で実現しなかったことで、時折つまずく人がある。このような人は、福音においては、様々な活動を伴う人生が永遠に継続し、地上の活動は天上へも継がれることを銘記していないのである。しかも祝福を与える御方、すなわち主は御自分の目的にかなう限り、祝福が私たちの生活の中で実現されるようにする権利を保有しておられる。私たちも、また祝福も主のみ手の中にあるのである。しかし、福音の律法に従った時に、約束された祝福が与えられたという証がたくさんある。」(*Evidences and Reconciliations*, Bookcraft, p.323)

その良い例が、私の父が受けた祝福師の祝福です。父は祝福の中で、「多くの美しい娘」に恵まれると言われました。父と母の間には5人の息子が生まれましたが、女の子はひとりもできませんでした。しかし、父母が息子たちの妻を娘として扱ったこと

私たちは自分に与えられた祝福師の祝福を読み返す度に、
証を強く確かなものとし、
より大きな人生の目的を持つことができます。

は言うまでもありません。去年の夏、親族の集いがあった時、私は父の孫娘たちが、小さな子供や年寄りの食事の手伝いや世話にかいがいしく働いている姿を見て、父の祝福が文字通りに実現したことを知らされました。確かに、父は多くの美しい娘たちを授けられたのです。父に祝福を与えた祝福師は、霊的な洞察力をもって、この世を超えたところに目を向けていました。この世と永遠の世界を分かち線がなくなっていたのです。

祝福師には自分自身が与える祝福は何もありません。祝福師の祝福は、主から授けられるものです。神は私たちの霊を御存じであり、長所短所を御存じです。また私たちの可能性、潜在的な力をも御存じなのです。祝福師の祝福の中には、私たちへの主の期待、私たちの可能性が示されています。そして、落胆した時には励まし、恐れがある時には力づけ、悲しむ時には慰め、不安に満たされた時は勇気を与え、霊が弱くなった時は奮い立たせてくれるのです。

父親の祝福



ジョン・A・ウィッツオー長老はこう述べています。「誓約の下に生まれた子供を持つ父親は皆、その子供に対して祝福師

である。そして自分が持っている神権の権能によってその子孫に祝福を与える権利がある。」(Evidences and Reconciliations, p.321)

大管長会は以下のような声明を出しています。「父親には子供に祝福を受ける役割が課せられていることについて、新たに注意を喚起したい。一般に、血統を宣言する責任はステーク部祝福師に任されており、正式の祝福師の祝福に関連して宣言されるべきであると考えられている。しかし、父親が子供に父親の祝福を授ける時に、血統を宣言するよう靈感を受けるならば、そうすることをとどめてはならない。その門戸は開かれている。

子供が兵役に就く時、また学業や伝道のために家庭を離れる時、その他状況に応じて、父親は子供に父親の祝福を授けるようにしていただきたい。」(「教会指導総合手引き」p.42)

イスラエルの家への養子縁組



最近、イスラエルの部族の特定の血統に属さない人々の改宗が増えていきます。彼らはイスラエルの血統ではないから何の祝福も受けられない

と考える必要はありません。

パウロは、信仰によるイスラエルの家への養子縁組について繰り返し書いています。「しかし、神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におるのではなく、霊におるのである。もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない。」(ローマ 8 : 9)さらにこう書いています。「彼らはイスラエル人であって、子たる身分を授けられることも、栄光も、もろもろの契約も、律法を授けられることも、礼拝も、数々の約束も彼らのもの、」(ローマ 9 : 4)

ベンジャミン王は信仰深い人を「キリストの子……キリストの息子や娘」と呼び、「信ずるから」「精神を新に」することができ、霊的な再生によって、キリストの家族になったと書いています。(モーサヤ 5 : 7)

イスラエルの家の民に与えられる祝福が、血統を通してもたらされるか、それとも養子縁組を通してもたらされるのかは問題ではありません。ジョン・A・ウィットオー長老はこう書いています。「この血統が直接血を継いだものであるか養子縁組であるかは問題ではない。」(*Evidences and Reconciliations*, p.322)

アブラハムの書にこうあります。「われ万国の民を汝の名によりて祝福せん。この福音を受くる者は皆汝の名によりて呼ばれ、汝のすえに数えられ、立ち上りて汝をその父として祝福すればなり。」(アブラハム 2 : 10)

ジョセフ・スミスは次のように教えています。「聖霊が文字通りのアブラハムのすえに降る時、それは穏やかで安らかなものです。……そして聖霊が異邦人に望むと、古い血を除き、本当にアブラハムのすえとなるのです。(生まれながらに)アブラハムの血を受け継いでいない人は、聖霊によって新たな人とならなければなりません。」

(*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, pp.149-50)

もし私たちが、主の望まれる道にとどまらなかったとしたらどうなるのでしょうか。しかも、この世の基が定められる前から、その道を踏み行なうようにと主から命じられていたのかも知れないのです。主がパウロに言われたように、あなたも「異邦人たち、王たち、またイスラエルの子らにも」主のみ名を伝える器として、選ばれた者です。(使徒 9 : 15)祝福師や父親から宣言された祝福にふさわしい生き方をするように努めて下さい。

私が祝福師の祝福を受けたのは、まだ12歳の少年の時でした。私はその短い祝福の言葉から、神の王国を打ち建てるみ業の中での自分の責任、働きについて重要なことを学びました。

皆さんが父親という祝福師、また聖任された祝福師を通して主から約束された祝福にふさわしい生活をし、それを実現するように求め、そのために努めて自分自身の状態、環境などを整えられるように祈るものです。

福音と恋愛



ブルース・C・ヘイフェン

➤ れを書くに当たって、私はみたまの
↳ 導きが与えられるようにと心から願わずにはられません。これから述べようとするこのテーマが非常に大切な、また微妙なものであり、独特なものだからです。「福音と恋愛」これがそのテーマです。

このテーマについて考えながら、私はその神聖さを感じています。また、このテーマは細心の注意を払って論ずべきものであり、心の奥底に厳粛な思いが湧いてくるのを感じます。通俗的な文学、映画、雑誌などでも何度も何度も取り上げられています。男女の愛はイエス・キリストの福音においても、その中心となるべきものです。「人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世2:24)これは神が与えられた律法の中でも、最も素晴らしいもののひとつです。また、このようにも言われています。「主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない。」(Iコリント11:11)

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー長老は次のように書いています。「男女の愛は……人生のごく一部を成すだけのものではありません。それどころか、人生そのものに重大な影響を及ぼすものなのです。これは非常に神聖なものです。これなくして豊かな人生は考えられません。実際、これなくして日の光栄の王国の最も高い位に入ることはできないのです。」(*Eternal Love*, Salt Lake City:Deseret Book Co., 1973, p.6)

アルマは浮かれ女イサベルに心を惑わされた不柔順な息子コリアントンへの言葉の中で、このテーマに関して別の側面があることを説きました。「わが子よ。罪のない者の血を流すことと、聖霊に逆らうことを除いて、このような行いはあらゆるほかの罪以上に、主の目から憎むべき行いであることを知らないか。」(アルマ39:5)

純潔の律法を守るべき理由として、妊娠や墮胎の恐れ、また祝福してくれる人がい



現代社会はサタンの支配下にあると思います。もっとも、現代人の多くは以前よりも自由になったと考えているようです。

ない恥辱にまみれた結婚や恐ろしい性病の懸念などがよくあげられ、不貞に関しては、夫婦や親子の絆の崩壊ということが言われます。確かにそういった事柄は重要な問題には違いありませんが、主が強盗、詐欺、誘拐などよりも、純潔の律法を破ることを重大な罪とされた根本的な理由とはならないと思います。

姦淫は殺人に次ぐ重大な罪であるという点について考えてみて下さい。姦淫と殺人には共通する要素があるように思えます。両方とも人の生命という最も神聖な力にかかわるものです。人を殺すことは、生命を奪う不法な行為です。一方、性的な罪は、その邪悪な行為によって生命が産まれてくることもあり得ます。すなわち、生命をもたらす神聖な源を汚す行為なのです。

私たちの限りある頭脳をもってしては、この戒めが与えられた真の理由を理解することは無理なようです。私たちはよく、喜び、証、感謝の念などの最も奥深いところを言葉で説明しようとしませんが、これらの尊い事柄を頭で完全に理解しようとしても、できるわけがありません。すぐに理解できる形で説明するには、あまりにも神聖で、奥の深い事柄なのです。自然はなぜあれ程に美しく、完全な調和をたたえているのでしょうか。小さな子供の笑顔を見ると思わ

ずほほえみが浮かんでくるのはどうしてでしょうか。特にそれが自分の子供である場合、心がなごむのはなぜなのでしょう。神はあらゆる時代の人々に繰り返し、「汝ら誠心を以て妻を愛してこれと結び合うべし。その他の者に愛着することなかれ。」(教義と聖約 42:22)「汝……姦淫を犯すなかれ。……また何事にもこれに類することを為すことなかれ」(教義と聖約 59:6)と言ってられました。私たちに知らされているのはそれらの事柄だけなのです。

読者諸氏が、このテーマについて論じられたものを見るのは、これが初めてではないと思います。また、これまでどのようなことを、どれほど読み、聞きしてきたかは知りませんが、いずれにしても、私たちは現在、性に関する邪悪な考えに染まり切った世の中で生活をしています。皆さんはこの点に関して、世を覆い尽くした道徳的な麻痺にかからないように、愛と思いやりをもって誤解することのないようにはつきりと警告を受けているはずです。

私は、自分はどちらかといえば、冷静で道理をわきまえた人間の部類に入っています。しかし、この性道徳という点に関しては、現代社会はサタンの支配下にあると思います。もっとも、現代人の多くは以前よりも自由になったと考えているようです。聖典(特に末日聖典)の中には、「心がきわめて悪い」「悪心」「悪心のある者」「悪魔に付く」「悪事を行う」といった悪を表わす言葉が、「肉欲におぼれる」「肉のことを思う」「肉欲に耽る」「肉欲を好む」「快楽に耽る」などの道徳的墮落を示す表現のすぐ後に続いている箇所が幾つか見られますが、(モーサヤ 16:3; アルマ 41:13;

42:10;ヒラマン12:4;教義と聖約20:20;モーセ6:49参照)それは理由のないことではありません。高価なる真珠にはこう書かれています。「サタンは彼らの中に来り……彼ら……サタンを神よりも愛でたり。人はその時より、肉体、肉欲、悪魔に従う者となり始めたり。」(モーセ5:13)そして、ついにあの悲劇の時が訪れ、カインが弟のアベルを殺したのです。

その後のカインの言葉は、彼が自分の永遠の魂と引きかえにこの世的な富を与えてくれるというサタンの約束を完全に信じ切っていたことを示しています。次のように書かれています。「カインその弟アベルに反抗して起ちこれを殺せり。カイン己れの為したることを誇りて言いけるは、われを妨ぐる者なし。」(モーセ5:32-33)しかし、「われを妨ぐる者なし」つまり自分は何にも束縛されていないと言ったその時こそ、カインは最も惨めな罪の奴隷となっていたのです。

皆さんは教会の指導者が不徳な映画や、それに類するテレビ番組を見ないようにと勧告する理由を理解しておられるでしょうか。私たちの周りには、麻薬、アルコール、俗悪な音楽、そして墮落した社会から産み出される様々な物が、魚を取り囲む水のようにあふれています。指導者がこれらの物を避けるようにと言うのはなぜでしょうか。これらの物を侮ってはいけません。戦いが終わりに近づき、あらゆる策略が用いられているのです。

純潔の律法の非常に重要な部分を占める、より肯定的な面について述べてみたいと思います。パッカー長老はこう書いています。「若人の皆さん……教会が求める様々な標

準は愛へ通ずる道なのです。必要な所にはしっかりとガードレールが設けられ……道に沿って助けが備えられています。教会は愛の周りに囲いを作って、自分をそこから占め出そうとしていると考える若人がいますが、それは愚かな考えです。……たとえ盲目的な従順にせよ、無意識なものにせよ、教会の標準に従う若者は幸いです。そのような人は大きな喜びを味わうようになるでしょう。」(Eternal Love, pp. 5-6)

聖典や予言者の言葉を正しく理解すれば、道徳的に正しい生活をするようにとの勧告は、恋愛が悪ではなく、非常に善なるものだからこそ与えられたということが分かるはずで、清く、貴いものであり、神聖でさえあるのです。サタンが最も卑劣な手段を弄してこれを汚そうとしている理由はそこにあります。サタンは卑しい情欲の像を世の人々の前に押し立てようとしています。それは雑踏に面したいかがわしい宿屋から聞こえてくる、下品な酔いどれ男たちのばか騒ぎから想起されるようなものです。そこでは高潔な女性像という花は、嘲りと残忍な仕打ちの中で、いつか汚れた足に踏みにじられてしまいます。一方、高い峰々に守られて人が足を踏み入れたことのないさわやかな溪谷の岩肌には、値をつけることのできない美しい花が、何の汚れも知らずに咲いています。この花は数少ない勇者に与えられる賜として、そびえ立つ岩肌を代価を払っても登りつめてくる人を待っています。求められる代価には、忍耐、従順、揺るぎない献身などがありますが、伴侶と子供に対する生涯変わらぬ無私の働きは、神に仕えることと同じです。



道徳的に正しい生活をするようにとの勧告は、恋愛が悪ではなく、非常に善なるものだからこそ与えられたということが分かるはずです。

いつの日か真実の恋愛をしたいと思っている人々に、正しい生活を基とする実際的な事柄を8項目ほど提案したいと思います。

1. 生命と、人間が持つ生命をもたらず力を尊んで下さい。皆さんの肉体は神殿です。神聖な宮居なのです。神のみたまが住まう所として建てられた神殿に対する畏敬の念を自分自身の肉体に対しても持って下さい。わたしたちの肉体は人間の生命の種子を宿すところであり、神御自身が定めたもうた律法に従って、自分が選んだ伴侶と共にこれを大切に育てていくのは、「好まじきこと、よき聞えあること、あるいは褒むべきこと」なのです。(信仰箇条 13)

2. 交際期間中の愛情表現は、慎みを常に忘れないようにして下さい。この慎みということ、いつ、どのように、だれにという点と比較して考えてみると、思慮に欠けると言わざるを得ない例がよく見受けられます。愛情表現の欲求がすべて真の愛に発露するものとは限らないことをはっきりと認識しておく必要があります。

キスはいつかそれが必要となる日が来るまで、大切にとっておきなさいと言った人がだれかいたと思います。疑うことを知らぬ友人の心の中に自由に入ることを許され

た時、あなたは神聖な場に立ったことなのです。そのようになった場合、あなたは愛とその表現に関して、自分自身と相手に対して誠実でなければなりません。

3. まず初めに友達であって下さい、恋人であるのはその次です。若い男女の関係はピラミッドのようでなければなりません。そのピラミッドの土台となるのは友情です。その上に時間、相互理解、尊敬、慎みなどが積み上げられていき、頂上に恋愛という光輝く小さな神秘があるのです。砂漠を行く疲れ切った旅人が遠くからこのピラミッドを見た時、まず目に映るのは頂上にきらめくあの宝石です。しかし、近づくにつれ、高い所に置かれた恋愛という宝石を下から支えるものがすべて見えてきます。ピラミッドを逆にし、その頂点ですべての重さを支えようとしても、決して長くはもちません。それは少し考えれば分かることです。別な言い方をすれば、まず友達であり、次に恋人でありなさいということです。これを逆にしてはなりません。逆にしてしまうと、自分たちは甘い関係の恋人同士だと思っていなくても、親しい友情関係は築けないということが起こり得ます。そして、それに気づいた時はもう遅過ぎたということにもなりかねないのです。

4. 自己を鍛練し、感情を制する力を養って下さい。ダビデのようであってはなりません、ヨセフの如くであって下さい。ポテパルの妻が、夫の僕としてその家で働いていた若きヨセフを、悪知恵をめぐらして墮落させようとした時のことを、聖典は、ヨセフは「外にのがれた」と簡単に記しています。(創世 39:12) 誘惑は抵抗するよりも、避けた方がよいということ、ヨセフ

は知っていたのです。

対照的にダビデ王は、長年神に忠実に仕えていたにもかかわらず、どうしたものか、誘惑に対する自分の力を過信するようになっていました。悲しむべきことに、彼は悪をもてあそばやし、結果的にはそれによって身を滅ぼしてしまいました。自分の家の屋上を歩いていた時、ダビデ王はそう遠くない所に、体を洗っているひとりの女性を見ました。その女性は非常に美しい人でした。ここでダビデは「外にのがれ」なかったのです。それどころか、人をつかわして彼女のことを探らせ、自分のもとへ連れて来させました。これがイスラエルで最も偉大な王の破滅への第一歩でした。(サムエル下 11 参照)

交際期間中は、たとえ自分たちの間には真実の愛という基盤が育っているという自信がある時でも、感情の高まりを抑え、その愛と、人生が持つ可能性に対する心からの畏敬の念を示し合うようにして下さい。最後の一線を越えさせなければ何をしてもしよという偽りの教えにだまされてはなりません。それは偽りです。というのは、ひとつのことをすればさらに次の段階へ押し流されてしまうというだけでなく、他の人の体に触れるという行ないは、決して見過ごしにはできない性的な行為に数えられるべきものだからです。それは純潔という至聖所の中で聖く保たれるべきものなのです。愛と情欲の境界がどこなのか判断できない場合は、灰色の部分は捨てて、愛の領域とはっきりと断言できる所に線を引いて下さい。崖に近づかなければ、そこから落ちることはありません。

5. 永遠の伴侶となる人を捜そうとする

時は、常に聖霊が共にいて下さるように求めながら生活して下さい。聖霊はいつもあなたを導いて下さることでしょう。結婚したいと思わない人とデートをしてはいけません。結婚すべきでない人を好きになり、心を奪われてしまってからでは、その人から離れられるようにと主の導きを求めることはできません。永遠の伴侶となる人を見つけ、永遠の絆を築こうとするなら、聖霊の導きが必要です。何をする時でもそうですが、聖霊の導きの必要性は将来においても変わることはありません。霊的な導きを得るための鍵は、どれだけ長く祈り、またどのような順序、どのような言葉で祈るかではありません。霊的な導きを得るための鍵は、それを受けるためのふさわしさという一点に尽きます。

聖典の勉強をする時に、教義と聖約 63:16 と 121:45-46 を比較してみてください。最初の聖句には、「女を見て欲情を起す者あらば、すなわちもし誰にても心の中に姦淫をなす人は、3つの非常に危険な結果を招くと書かれています。まず、彼らにはみたまが与えられない。第2に、彼らは信仰を拒む。第3は、恐れを抱くようになるということです。

一方、欲情を起すことによって引き起こされるこれら3つの結果とは正反対に、「絶えず徳を以て……想を飾る」人にもたらされる結果が、121:45-46 に記されています。まず、聖霊が常に伴侶となると書かれています。また、信仰を守るなら、神権の教理が天から下る露のように魂をうるおしてくれます。そして徳をもって心を満たす人は、欲情を起す人が感ずる恐れとは対照的に、自ら信ずることが神の前に強



愛と情欲の境界がどこなのか判断できない場合は、灰色の部分は捨てて、愛の領域とはつきりと断言できる所に線を引いて下さい。崖に近づかなければ、そこから落ちることはありません。

くなるのです。

6. 異性との交際がうまくいかない時に、いつも落胆していたり、心配し過ぎたりすることのないようにしましょう。世の中の人々が皆あなたを好きになり、あなたと結婚する必要はありません。ひとりだけでよいのです。

落胆は、自分自身について知ろうとする人ならだれでも経験する不安が、ひとつの形となって現われたものである場合が多いのです。よい対人関係の中で自分自身の価値をはつきりと認めてもらえないと、自分の人生は本当に価値があるのかと疑い始めるようになります。自分自身に対するこの種の懷疑は既婚、独身を問わず、ほとんどの人に生涯つきまとうより大きな問題のごく一部に過ぎません。時々私たちは、主は自分を愛しておられるのだろうか、自分は人々から愛されているのだろうかと考えることがあります。そして誤った考えに陥り、人の評判、富、名声など成功の象徴と考えられるものを追い求めるようになるのです。

だれかが自分の体に触れるのをそのままにしたり、一時的に解放感を与えはしても後で罪悪感を引き起こす習慣に憂き身をやつす人も中にはいます。場合によっては、

愛のない結婚をする人もいます、それも、自分を選んでくれる人もいるのだということ人を人に示すだけのためにです。しかし、結局のところ一番大切なのは、自分の生活を主から正しいものと認めていただくことなのです。もし私たちが主のみこころを知るにふさわしく、それに従おうとするなら、後のことはすべて自然に解決されます。神を愛する人々にはすべてが益となることを忘れないで下さい。(ローマ8:28 参照)

中年になるまで結婚の機会が訪れて来ない人もいるでしょう。でも「待った分だけ、倍も素晴らしい」結婚になるかも知れません。(Eternal Love, p.17) 現世において結婚の機会に恵まれないとしても、主の時の見方からすれば、忠実でありさえすれば、永遠の愛の約束は依然として変わることがないので。

7. 私通、^{しつう}姦通^{かんつう}はもとより、同性愛、墮胎も是非とも避けなければなりません。これらは由々^{ゆゆ}しき大罪です。強制的に墮胎をさせようとする人はもちろん、それに手を貸そうとする人も伝道に出る特権を危うくしています。教会法廷に出頭を求められ、会員資格を問われることにもなりかねません。

8. 不幸にして、これまで述べてきた道徳的な罪を過去に犯したという人がいるかも知れません。しかし、完全な赦しを得るための道が備えられています。聖典の中で、次に挙げるイザヤ書の言葉ほど素晴らしい約束はありません。「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅^{くわい}のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ1:18-19)

犯した罪が重大なものであるなら、監督

の所に行き、自分から完全な告白をしなればなりません。そんな辛い^{つら}いことがと思われれるかも知れません。しかし、それによって、今考えている以上に希望に満ちた、素晴らしい目的と心の安らぎを得ることができるとのことです。

告白をした後、自分は主の前にどのような者となるかを知りたいと思う人には、七十人第一定員会のボーン・J・フェザーストン長老の言葉を読むようにお勧めします。フェザーストン長老は1980年10月総大会で、大きな罪を犯した場合の悔い改めについて話しました。率直で愛の精神に満ちたこの説教の中で最も強く心に残るのは、勇気と信仰をもって自らの罪を告白し、必要なら教会からの処分に従おうとする人々に対するフェザーストン長老の思いやりが表われている部分です。私もフェザーストン長老の考えに非常に共鳴しています。その中の一部を引用してみたいと思います。

「私はこれまでに、重大な罪を犯した数多くの人々の告白を聴きました。そして真に悔い改めた罪人が私の部屋を後にするたびに、私は机のうしろでひざまずく頭をたれて、次のように祈りました。『主よ、どうぞあの人の罪を赦して下さい。もしそれがかなわなければ、どうぞあなたが書き記した書から、私の名も消し去って下さい。』」

……

たとえ罪が緋のようであっても、雪のように白くなれるのです。(イザヤ1:18参照)そして主は、『もはやこれを忘るべし』(教義と聖約58:42)と約束しておられます。『どうか、彼らの罪を赦して下さい』「聖徒の道」1981年4月号, p.58)

これまで私は、現代の社会状況に関する警告、また、自然な感情の表現で心すべき事柄などを話してきましたが、それらすべてに関連して、いつも心に留めておいていただきたいことがあります。男女の愛に関する福音の教えは人の心を高め、その中には絶えることのない希望、平安、喜びが満ちあふれています。神の戒めは人に最高の喜びを与えるために定められたものであること、また、主のみこころにかなった恋愛は、待ち望む価値があるということを中心に証します。

(ハイフン兄弟は、アイダホ州レックスバーグの、教会が経営するリックス・カレッジの学長を務めている)

話し合いのために

個人または家族でこの記事を読んだ後、福音の勉強の時間に以下の事柄について話し合うとよいでしょう。

1. 純潔とは何か。なぜ教会は純潔という教えを強調するのか。
2. 純潔を捨てる人は果たして“自由”なのだろうか。純潔の律法に従わない人は、どのような危険を犯しているのか。
3. 道徳的に高潔な人格を築くためには、何を避け、何を求めていくべきか。
4. 真実の愛を見いだすための8つの指針として挙げられている項目を要約する。

- | |
|--|
| 1. マリヤ, 2. ミリアム, 3. イヴ,
4. エマ・スミス, 5. エリサベツ,
6. ルツ, 7. エービシ, 8. タビタあるいはドルカス, 9. サライア, 10. エステル, 11. レーマン人のラモーナイ王の後, 12. マグダラのマリヤ |
|--|

●「聖典の中の女性たち」pp. 23-25の正解



ちい とも 小さなお友だちへ



もちより シチュー

お話：キャロル・ファーリー

メ リンダは、^{おお}大きな^{まち}町の^おアパートに^す住んでいて、よく^{いり}入口の^{ぐち}ところであそびました。メリンダは、アパートのみんなを知っていました。2号室のサリバンおじさんは、^{くるま}車いすで^{てがみ}手紙をとりに出てくると、「こんにちは、ニコニコじょうちゃん」と言いました。「ちよつとごめんよ。ちこくだ、ちこくだ。」5号室のワレルさんは、こいまゆ^げ毛をヒクヒクさせながら、わめきちらしました。

ジョンソンさんの^{いえ}家のふたごの子は、いつもこう言いました。「ねえ、^{いっ}一しよになわとびしない？」

ふたりの^{かあ}お母さんはパン屋^やさんではたらい^{とう}ていて、お父^{しつぎょう}さんは失業^{ちゆう}中^{ちゆう}でした。

「ああいやだ、いやだ」 4号^{ごう}室^{しつ}のベイツ^{ちやいろ}さんは、いつも茶色^{ちやいろ}のかみの^け毛をゆさゆささせて、もんく^いを^い言^いっていました。「あんたたち、^{いりぐち}入口^{ぐち}をふさがないでっ！」

「^き気^きをつ^きける、^{ふんづけ}ふんづけ^{ちまう}ちまうじゃないか。」 3号^{ごう}室^{しつ}のスプリリー^{みみ}さんは、いつも^{みみ}こう^{みみ}ど^{みみ}なり^{みみ}ました。スプリリー^{みみ}さんは^{おおごえ}耳^{みみ}がよく^{おおごえ}聞^{おおごえ}こえ^{おおごえ}ないので、いつも^{おおごえ}大^{おおごえ}声^{おおごえ}で^{おおごえ}わめ^{おおごえ}き^{おおごえ}ち^{おおごえ}ら^{おおごえ}す^{おおごえ}ので^{おおごえ}した。

8号室^{ごう}のトレスキー^{しつ}おば^{しつ}さんは、いつも^{しつ}ジョ^{しつ}ギ^{しつ}ング^{しつ}を^{しつ}して^{しつ}いま^{しつ}した。おば^{しつ}さんが^{しつ}走^{しつ}ると、^{なが}長^{はな}い^{うえ}鼻^{うえ}の上^{うえ}で^{うえ}め^{うえ}が^{うえ}ね^{うえ}が^{うえ}ヒ^{うえ}ョ^{うえ}イ^{うえ}ヒ^{うえ}ョ^{うえ}イ^{うえ}は^{うえ}ね^{うえ}ま^{うえ}した。

メリンダは、パスカ^{いちばん}リ^{いちばん}お^{いちばん}ば^{いちばん}さん^{いちばん}が^{いちばん}一^{いちばん}番^{いちばん}す^{いちばん}き^{いちばん}で^{いちばん}した。パスカ^{かお}リ^{かお}お^{かお}ば^{かお}さん^{かお}の^{かお}顔^{かお}は^{かお}し^{かお}わ^{かお}く^{かお}ち^{かお}や^{かお}で、^{かお}び^{かお}つ^{かお}こ^{かお}を^{かお}ひ^{かお}き^{かお}ひ^{かお}き^{かお}歩^{かお}き^{かお}ま^{かお}した。でも、^{かお}す^{かお}ごく^{かお}楽^{かお}し^{かお}そ^{かお}う^{かお}に^{かお}わ^{かお}ら^{かお}い^{かお}ま^{かお}した。

パスカ^{かお}リ^{かお}お^{かお}ば^{かお}さん^{かお}の^{かお}部^{かお}屋^{かお}には、

おもしろいものがたくさんありました。中でも一番おもしろいのは、^{なか}古い^{いちばん}古^{ふる}い^{おん}く^き音機^{おん}でした。ハンドルをまわすだけで、すてきな音楽^{おがく}がながれてくるのです。パスカリおばさんは、お金のほかは何でも持っているみたいでした。

おばさんは、いつも何とかやっています。でも、ある日^ひのこと、おばさんの戸^とだ^{しよ}な^{もつ}には食物^{ぜんぜん}が全然なくなっていました。おばさんはためいきをつきました。その時^{とき}、メリンダはいいことを思い^{おも}つきました。「おばさん、心配^{しんぱい}しないで。」メリンダは、ニコニコしながら言^いいました。「今日^{きょう}はもちよりシチューにしましょうよ。」

「もちよりシチュー？ 何^{なん}だいそれは。」パスカリおばさんは、目^めを丸^{まる}くしてメリンダを見^みました。

「見ていけばわかるわ。おばさんが大^{だい}す^{ひと}きな人^{ひと}たちを夕^{ゆう}食^{しょく}によびましょうよ。」

「どうしてわたしが人^{ひと}さまを夕^{ゆう}食^{しょく}によべるんだね。家^{いえ}には人^{ひと}さまに出^だす食^たべ物^{もの}なんかないんだよ。」

メリンダは、大^{おお}きなおなべを持

ってきて、ヨッコラショとパスカリおばさんの部^へ屋^やのガ^{だい}ス台^{だい}におきました。「これでいいわ。このア^{ひと}パート^{パート}の人は、みんなおばさんのことが大^{だい}すきよ。わたし、みんなをよんでくるわ。」

メリンダは、さいしょにサリバンさんの部^へ屋^やに行^いって、わけを話^{はな}しました。サリバンさんは、なみだをふきふき言^いいました。ちょうど、タマネギをむいているところだったのです。「そうかい、それ



じゃあわたしは、タマネギを持っ
ていこう。」メリンダもなみだが
出てきました。でもタマネギのせ
いではありませんでした。

メリンダがサリバンさんの部屋
を出ると、入口のドアがいて、
トレスキーおばさんが大きなミル
クびんをかかえてとびこんでいま
した。「もちよりシチューだつて？
いいねえ。ミルクを持っていくよ。」

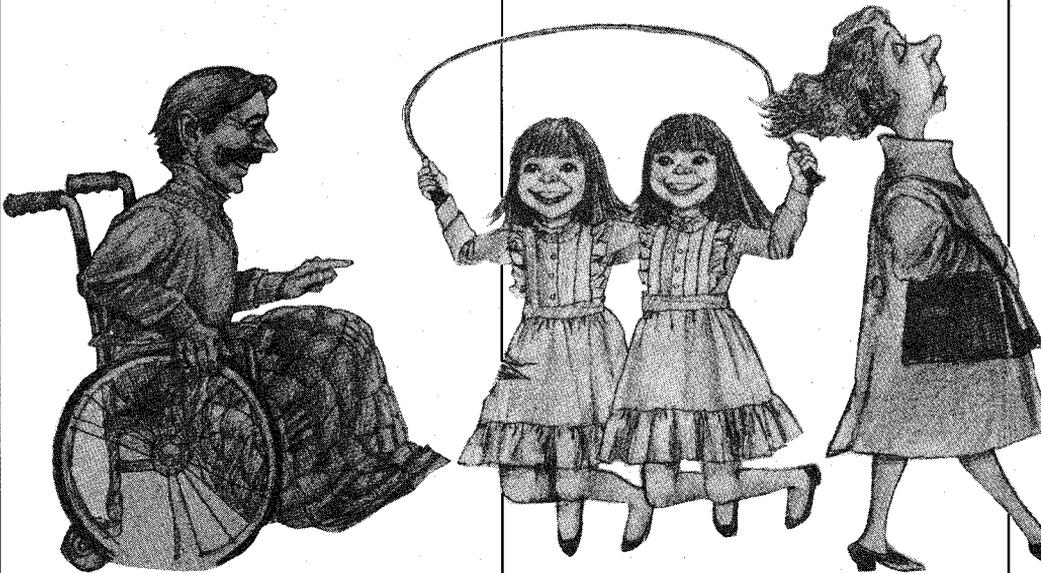
灰は、スプリーリーさんです。
スプリーリーさんの部屋からは、
肉のにおいがただよってきました。
「何だつて？」おじさんはがなり
ました。「もちよりシチュー？
どこで？ いつ？ だれが？」

「うるさいよ。何をやっている
んだい。」向かいがわのドアがあ
いて、ベイツさんがどなりました。
メリンダは、ベイツさんとワレル
さんをよぼうかどうしようか、ま
よいました。でも、やっぱりよぶ
ことにしました。

「もちよりシチューだつて？
そりゃあいいねえ。わたしも行
くよ。何を持っていくかねえ。」
ベイツさんは言いました。

今度はワレルさんの部屋です。
メリンダは、わけを話しました。

「ふうん」ワレルさんは少し考
えていました。ブツブツ言ってい
る時のワレルさんよりも、ずっと



すてきでした。ワレルさんは言いました。「その時間は、いつもテレビのニュースを見ているんだが行くよ。」

メリンダのお母さんも、赤ちゃんをつれて来てくれることになりました。

メリンダは、一番上のジョンソンの部屋へかけ上っていきました。ジョンソンさんのおじさんは、おくさんがパン屋さんの仕事がおわって帰ってきたら、みんなで行くとやくそくしてくれました。

メリンダは、6時少し前にパスカリおばさんの部屋へ行って、テーブルに食器をならべるのを手つ

だいました。それから、お気に入りのレコードを見つけてきて、ちく音機のハンドルをまわしました。その時、ドアをノックする音がしました。パスカリおばさんがドアをあけると、ベイツさんがとびこんできて、大きな声で言いました。「その歌、子どものころに聞いたつきりだったねえ。」

「どんなできぐあいか、見せてくださいよ。」サリバンさんが、ガス台のところへ車いすでやってきました。

それから、よんだお客さんが一度にみんなやってきました。「わしも、もちよりシチューが見たい



よ。」そう言って、がまんのない
スプリーリーさんが、ジョンソン
家族の後から頭を出しました。す
ると、メリンダのお母さんが言
いました。「ちょっと、すみません。
赤ちゃんにまほうのおなべを見せ
てやりたいんです。」

間もなく、みんなわらったりお
しゃべりしたりし始めました。音
楽につれて、歌い出す人もいま
した。部屋中に、パスカリおばさん
の明るい声がひびいていました。

とうとうシチューができました。
メリンダは、大きな声で言いま
した。「できましたよお。」

「さあさあ、もちよりシチュー

のお通りだよ。」ワレルさんはガ
ス台のところから大きなおなべを
はこびながら、言いました。ワレ
ルさんは、おなべをなべしきの上
におきました。

メリンダは、ふたの上になべつ
かみをおいて、言いました。「さ
あ、パスカリおばさん、よそいま
しょうよ。」

パスカリおばさんは、心配そう
にふたを持ちあげました。

おなべの中は、いっぱいでした。
肉も、ジャガイモも、ニンジンも
タマネギも、セロリも、しるもた
っぷりありました。みんなが持つ
てきたもので作ったシチューです。



みんな、もりもり食べました。
それでも、パスカリおばさんの明
白の食事がのこりました。

「何とお礼を言ったらいいやら。」
お客さんたちが帰りたくを始め
ると、パスカリおばさんはおずお
ずと言いました。

「今度のもちよりシチューパー
ティの時には、何か持ってきま
すよ。」 ジョンソンさんのおばさ
んが言いました。

「そうですねえ。これからもや
りましょう。」 メリンダのお母さ
んはそう言いながら、赤ちゃんを
ねかしつけにいきました。

すると、スプリーリーさんや、

ベイツさんや、「フレルさんや、サ
リバンさんが口々に言いました。

「だれかがさびしがっている時
に、やりましょうや。」

「だれかが病気の時にもね。」

「たいくつな時にも。」

「それに、何かおいわいの時に
もやりましょう。」

「いつも元気であるためにもね。」
トレスキーおばさんは、こうじよ
うだんをとばして、夜のジョギン
グにとび出していきました。

「もちよりシチュー、すばらし
いねえ。」 パスカリおばさんは、
うれしそうに言いました。メリン
ダは、おばさんにだきつきました。



よ げん しゃ ちから 予言者の力

ヒラマン10, 11章より



— ニーフアイは、すっかり元気をなくしていました。ニーフアイ人たちに正しい生活をするよう、本当に一生けん命になって教えたのに、ニーフアイ人たちは、悪い行ないをやめようとはしなかったからです。ニーフアイが家に向かって歩いていると、神様の声が聞こえてきました。「ニーフアイよ、なんじはよい行ないをしたので、さいわいである。なんじにいつまでもしゆくぶくをあたえる。なんじのどんなねがいで、かなえよう。なんじは、わたしのところにそむくことを、ねがわないからである。」





そして神様^{かみさま}は、ニーファイにニーファイ人^{じん}のところへ行ってこう言うようにとおっしゃいました。「もし、くいあらためなければ、ぜんめつするまで打たれるだろう。」

そこで、ニーファイは家へ帰るのをやめて、人々^{ひとびと}の中へ行き、神様^{かみさま}の言葉^{ことば}をつたえました。ニーファイは、悪いニーファイ人^{じん}たちにくいあらためるように話^{はな}しましたが、悪いニーファイ人^{じん}たちは、耳^{みみ}をかそうともせず、ニーファイをろうやへ入れてしまいました。しかし、ニーファイには神様^{かみさま}の力^{ちから}がついていたので、みたまがニーファイをまたニーファイ人^{じん}の中へつれていきました。

ニーファイはあちらこちらへ歩いていき、みんながニーファイの言葉^{ことば}を受け入れるまで、くいあらためるように話^{はな}してまわりました。しかし、それでも悪い人々^{ひとびと}は、くいあらためませんでした。それどころか、悪い人々^{ひとびと}はもつと悪くなり、おたがいにつるぎでころし合うようにまできてしまいました。そして、ガデアントンという男^{おとこ}が、ひみつのどろぼう集^{しゅうだん}団^{だん}を作り、国^{くに}中^{にじゅう}をあらしまわって、ニーファイ人^{じん}の中^{なか}にせんそうを起^おこし始^{はじ}めました。

ニーファイは、ニーファイ人^{じん}たちがみんなほろぼされてしまうのではないかと、おそれました。ニーファイは、ニーファイ人^{じん}をあいしていました。ですから、もう一度くいあらためのチャンス^{いちど}が来るようにとねがって、おいのりをしました。「どうぞ人々^{ひとびと}が



かみさま おも お
神様を思い起こすように、この国くににききんおを起こしてください。
そうすれば人々ひとびとはくいあらためて、神様かみさまのもとへ立ち帰かえるでし
う。」

すると、ひどいかんばつおが起こって、地面はカラカラじめんにかわい
てしまいました。もう、こくもつも、くだものもそだ育ひとちません。人
人ひとはうえて、大ぜいの人々おおが死ひとびとんでいきました。ニーファイ人じん
たちは、自分たちがほろびてしまうことにじぶん気づき、やつとのことで
ニーファイの言葉ことばをおもい出だし、けんそんになりました。ニーファイ
人じんたちは悪い行わるないをおこくいあらため、ニーファイのところにや
ってきて、もう3年ねんもつづいているききんをおわらせてくれるよ
う、神様かみさまにねがってほしいとたのみました。

ニーファイは、人々ひとびとがくいあらためたことを知しって、雨あめをふら
せてくださるように、おいのりしました。神様かみさまはニーファイのい
のりをおききになり、雨あめがふり始はじめました。そして、くだものや
こくもつが育そだち始はじめ、かり入れもできるよいうになりました。ニー
ファイ人じんたちは、神様かみさまにかんしゃし、神様かみさまがしてくださったこと
をよろこびました。そして、やつとニーファイが予言者よげんしやであるこ
とをみとめ、ニーファイの持もっている神様かみさまの力ちからにきづいたのでし
た。

ひとびと まも
人々がいましめを守まもっているときは、国くにがさかえました。町まちは

おお 大きくなり、^{きょうかい} 教会も大きくなって、ほとんどのニーファイ人^{じん}が教^{きょう}員^{いん}になりました。人々^{ひとびと}が正^{ただ}しい生活^{せいかつ}をし始めると、国^{くに}は平和^{へいわ}になり、国^{くに}が平和^{へいわ}になると、国^{くに}や町々^{まちまち}がさかえ始めました。しかし、国^{くに}や町々^{まちまち}がさかえると、人々^{ひとびと}は、またこうまんになり始めました。生活^{せいかつ}が楽^{らく}になり、だんだんによいものをもとめるようになり、ニーファイ人^{じん}たちは、神様^{かみさま}と神様^{かみさま}のめぐみをわすれて、お金^{かね}にばかり心^{こころ}をうばわれるようになっていきました。すると、またガデアントン^{しゅうだん}のどろぼう集^{ちから}団^もが力^{ちから}を持つようになり、人々^{ひとびと}は悪い行^{わる}ない^{おこ}をするようになり、国^{くに}中に、せんそうや、ぼう力^{りよく}がたが起^おこり、ニーファイ人^{じん}たちは自分^{じぶん}も命^{いのち}をおとしはしないかと、おそれるようになり、国^{くに}中^{じゅう}がそのようにひどいありさまになったので、人々^{ひとびと}はまた神様^{かみさま}を思い起^{おも}こしました。ところが、めぐみを受けると、また悪い行^{わる}ない^{おこ}をするようになっていくのでした。ニーファイは長い間^{なが}、自分^{あいだ}にあたえられた神様^{じぶん}の力^{ちから}を使^{つか}って、人々^{ひとびと}を教^{おし}えようとして、しかし、ニーファイ人^{じん}たちは、めぐみを受けて平和^{へいわ}になり、ひつじがふえ、お金^{かね}がもうかるようになると、そのたびにごうまんになり、神様^{かみさま}をわすれるのでした。そうすると、人々^{ひとびと}がけんそんになり、悪い行^{わる}ない^{おこ}をくいあらためるまで、ニーファイはまた何か^{なに}わざわいをねがわなければならぬのでした。

その響きは全地にあまねく (詩篇19:4)

— JMTC からのレポート —



19 83年4月19日、この日は日本人宣教師訓練センター (JMTC) の新たな進展を告げる記念すべき日として、長く記憶されることでしょう。

訓練センター創設以来、この4年間に入所した宣教師は514名ですが、今回の第47期生は長老24名、姉妹13名の合計37名、過去46期の平均が12名弱であることを考えると飛躍的な増加です。もちろん過去最高の数字であることは言うまでもありません。

宣教師たちの宿舎として、これまではホテルが用いられてきましたが、今回からは

東京神殿横の建物がそれに充てられるようになり、教会地域管理本部の2階会議室が訓練会場として用いられます。

鈴木正三長老を初め、伝道部長の経歴を持つ田中健二長老、相良健一長老、坂井圭兄弟、岡本亮兄弟らを教師として招き、レスプランの学習、伝道の心構え、目標の設定など全般的な事柄について、9日間にわたるオリエンテーションが行なわれました。

3日間の神殿参入を含む集中的な訓練によって、入所当時は自信げな様子の宣教師たちも、強い自覚と確信を持つようにな

●4月19日、第1日目の集会を管理し、約5時間半にわたって日本人宣教師の訓練を行なうウィリアム・R・ブラッドフォード長老。

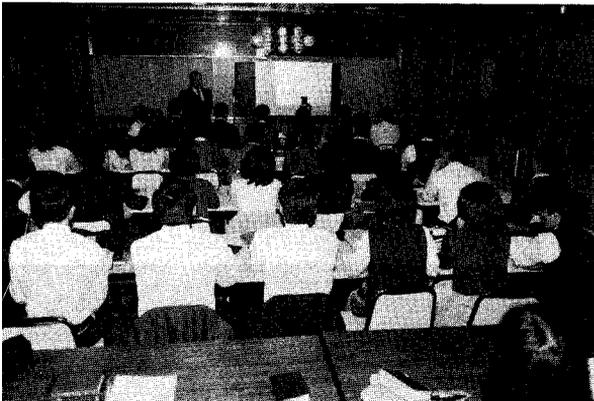
り、4月27日、全員元気一杯任地へ赴きました。

JMTCの伝道部長である鈴木長老は次のように述べています。「福音をよく学び、霊的な準備をし、自分の生活を福音にそったものにするなら、両親の賛成を得、伝道に出ることができるようになるでしょう。教会にいるすべての若い兄弟たちが、今からすぐ、伝道に出る準備をして欲しいと思います。日本の伝道部で500名以上の日本人宣教師が働き、ひとりの日本人にひとりの外人宣教師という組み合わせで、効果的な伝道が行なわれる日が来るのを楽しみにしていま



す。そうなれば伝道は伸び、やがて日本人宣教師だけによる伝道へと進んでいくでしょう。」

「さて見よ、われ今汝に告ぐ、すなわち汝にとりて最も価値あることは、汝今の代の人々に悔改めを宣べて人々をわれに導き、^{もつ}彼らと共に父の御國に休まんことなり。」(教義と聖約15:6)



●教会地域管理本部に集った総勢37名の日本人宣教師。ここで9日間の研修が行なわれ、任地の各伝道部に向かう。

桃太郎を目指した 40人の若者

◎名古屋ステーキ部ユースカンファレンス

桃太郎賞

若き時に



力を得よ!

博 物館、明治村と木曾川^{うかい}で有名な愛知県犬山市は実は桃太郎の出生地としても知られています。3月24日から3日間、その桃太郎神社にほど近い犬山ユースホステルで、「若い時に力を得よ」をテーマに、ユースカンファレンス（中学生と高校生の大会）が開かれました。

6名の高校生から成る実行委員会が企画、立案をすべて行ない、彼らから割り当てを受けた各ワード部、支部の青少年が各プログラムの計画、司会、実行を受け持つという進め方で、今大会はかつてない盛り上がりを見せました。主なものだけでも、初日の犬山市体育館でのバレーボールとバスケットボール、夜のダンスパーティー、2日目のセミナー、東海自然歩道でのオリエンテーリング、夜のタレントショー、3日目のセミナー大会、証会と、盛り沢山のプログラムをすべて成功させることができたのは、彼らが自分で実施したからです。

今回の大会はまた、初めて「桃太郎賞」受賞プログラムを導入しました。これは①毎日、ステーキ部長が出すチャレンジを果たす、②毎日、「家族の祈り」をする、③毎朝、「朝のつどい」に遅れないよ

●オリエンテーリングから帰ってきた若者。班長と副班長は桃太郎鉢巻をし、実行委員は桃太郎トレーナーを着ている。

うに早起きする、④公共場所の清掃を30分間行なう、⑤プログラムに積極的に参加する、の5項目を各人が達成し、班長に証明してもらって賞状を得るといふものです。これは「義務達成賞」や「成長する私」などと同じ個人の業績達成のプログラムであると共に、4人の班長（アロン神権者）と4人の副班長（若い女性）が3日間の班員の生活を指導するプログラムでもありました。

班長が年下の班員を連れて、ステーキ部長からの〈30人と握手する〉やくりがとうを3回言ってもらおう（そう言ってもらえるような良い行ないを何度もする）チャレンジを実行させたり、副班長が非教会員の参加者に証の仕方を教えているほほえましい光景がそこかしこで見られました。

このような青少年の参画によって、出席者全員が、表彰式で「桃太郎賞」を授与され、証会で証を述べるという素晴らしい成



功を収めました。そして仕事を休んでこの大会に集った成人指導者たちを感激させました。

カバンに桃太郎賞、胸に熱い思いを大切にしまい込み、一段と力を得て強くなった若者たちの列が、仲良く山道を下っていきました。(レポーター：名古屋ステーキ部若い男性会長・竹本洋一、若い女性会長・近藤恵子)

「健康を考える」

—福岡ステーキ部伝道集会—

去る3月21日、福岡ステーキ部北九州ゾーンの伝道集会が北九州ワード部において催されました。

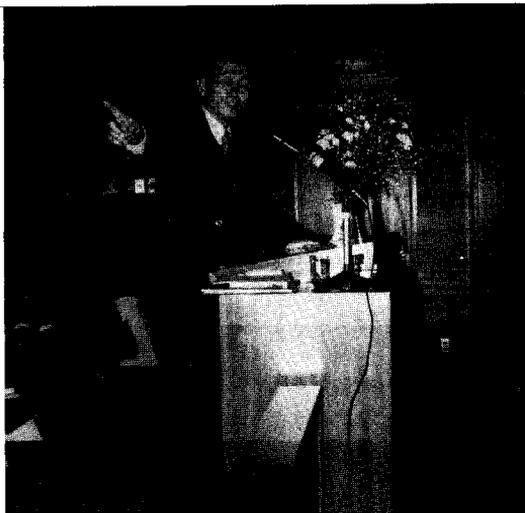
この伝道集会は「健康を考える」というテーマの下に、北九州市立八幡病院の川野正七院長の講演を中心に進められました。当日、北九州ワード部近辺のお年寄りも出席され100名近くの人々が熱心に講演に耳を傾けられました。

川野院長は「恐るべきタバコ」という著書で有名な、タバコの毒性に関する権威で、1時間半にわたってタバコの有害性を中心に、運動、ビタミンなどが精神と肉体にどのように作用するかについて熱演されました。

その理解しやすくユーモアあふれる講演に、会場は終止和やかな温かい雰囲気につつまれていました。

最後に野間龍一ステーキ部長が「知恵の言葉」について話され、私たち教会員は、どこにあっても雄々しくこの戒めを守り、

●北九州ワード部礼拝堂で講演する北川市立八幡病院長の川野正七氏



健康の素晴らしさ、福音の素晴らしさを世の人々に伝えなければならないと強調されました。

この集会に出席されたひとりの求道者の方はすぐに「私はタバコをやめます」と力強い決意をされたそうです。

外部講師をお招きしての初めての集会でしたが、靈感あふれる素晴らしい集会でした。(レポーター：福岡ステーキ部高等評議員・藤島浩)

●「知恵の言葉」について語る野間龍一ステーキ部長



模範による改宗

—「奥さん、何か信仰をしていらっしゃるのですか」—

岡山地方部岡山支部

中尾 雅子



●右側が中尾姉妹、
左側が秋田姉妹

一 昨年、私は健康そのものと思っていた親思いのひとり息子を癌で亡くし、生きる希望も張りもない、涙に暮れる毎日を過ごしていました。そんな私を心配してくれた姉の言葉もあって、それまで住んでいた倉敷から実家のある岡山へ引っ越しということになりました。実家がスーパーの中へ食料品店を出していて、姉や妹たちと一緒に店を手伝い（まかせ）ましたが、けっこう忙しく少しは気も紛れていました。

そんなある日、社長である弟から、支店の方をやってほしいと頼まれました。そこは前からいろいろと問題があり、閉めようかどうかと迷っていた店で、私も一度も行ったことがありませんでした。あまり気乗りはしませんでした。姉や妹もそこへは行きたがらず、私の住まいが近いということもあって、しかたなく承知しました。

慣れない仕事に神経も体もクタクタに疲れ、店へ出ても、家に帰ってもひとりぼっちの寂しい日が続きました。お客さんになじんでいただくようと努力しても、反応は冷たく、つらい毎日でした。朝、目が覚めるとまず大きなため息で一日が始まります。体も重く優うつでした。そんな自分を励ま

しながら頑張りましたが、次々と問題が起こって苦しみは増すばかり、とうとう体を悪くし、胸から背中にかけて突き刺すような痛みに襲われるようになりました。夜中に寝返りを打つ度に痛みで目が覚めてしまったものです。

こんなことではだめになってしまう、何とか立ち直らなければと思ってた頃、知人からの勧めで朝4時頃起きて朝起き会（倫理宏正）に行ったことも度々あります。ほかにも他の宗教の話を聞きに行ったりしましたが、少しも心に響くものがなく、疲れるばかりでした。妹が送ってくれた生長の家の本を仕事の合い間に読み、少し心が休まったこともあります。

そんな時、私は近くの店で働くひとりの方に強い印象を受けるようになりました。それが秋田姉妹でした。私の働いている場所からは秋田姉妹のお店がよく見えます。何となく見ていますと、お店の方とかお客さんたちと話をする物腰、態度が周囲の方たちと違います。いつもニコニコと優しい笑顔で、特にお年寄りや不自由な体の人に対してはいたわりの気持ちで体いっぱいにあふれているという感じでした。何と素晴らしい人だろう、きっと何か信仰をもっていらっしゃるに違いないと思い、それまであまりお話ししたことはありませんでしたが、思い切って尋ねてみました。「奥さん、何か

信仰をしていらっしゃるのですか。」すると「ええ、少しね」と言ってほほえまれたのです。

私が生長の家の本を読んでも話を話しますと、「それは良い本ですね、でもこの本も素晴らしい本ですから暇があったら読んで下さい」と聖徒の道やパンフレットなどを貸して下さいました。それから折に触れ教会、神様、聖典のことなど、いろいろと話を聞かせていただきました。私の個人的な相談にも乗って下さって、適切なアドバイスを受けたこともあります。時には厳しいお話もありましたが、少しの反発心も起こらず、素直な気持ちで聞くことができました。

何不自由なく、幸福そうに見える秋田姉妹にもとても苦しい時期があり、それを乗り越えて来られたのは、信仰があったからだと言ひ、私も是非にとお願いし、姉妹宣教師の方を紹介していただきました。夜寒い中、遠い道のりを自転車ですべて、神の福音を一生懸命伝えて下さる若い姉妹宣教師に感謝し、感激しながら私も一生懸命学んでいました。

気がついてみますと、いやな問題も少しずつ片付いて、体の具合もすっかり良くなっていました。バプテスマの祝福を早く受けたい一心で、大好きなコーヒーもすぐにやめることができましたが、休みが月曜日であり、ひとりで店を見ていることから

教会へ行くことができませんでした。パートの方をあちらこちらと当たってみました、なかなか適当な方が見つかりません。朝夕、毎日祈りました。宣教師の姉妹も一緒に祈って下さいました。

不思議なことが起こりました。本当に不思議なことに、30年も本店を手伝っていた姉が、急に家にいなければならない事情ができて、店をやめたのです。そして日曜日に4時間、店を見てくれることになり、教会に集うことができるようになりました。神様の導きとしか思えません。一生懸命努力して、そして祈れば神は必ずお聞き下さることを私は身をもって知ることができました。

バプテスマを受ける当日は、大寒に入ったばかりの寒い日でしたが、思いがけず大勢の方が祝福に来て下さいました。その温かい愛につつまれての式は厳粛で、すがすがしく、按手札を施して下さいました。支部長の言葉は、とても素晴らしく、一生忘れることができません。

振り返ってみますと、苦しい思いをしながらいやでたまらなかつた支店へ来たのは、秋田姉妹に会い、素晴らしいバプテスマを受けるための神の大きな愛の導きであったと、感謝の気持ちで一一杯です。現在は店も何とか良い方に向かい、難問もうそのように解決し、神に守られた日々で本当に幸せです。息子もきつと喜んで見守っていてくれることでしょう。

忙しい毎日ですが少しずつでも聖典を学び、周りの人々に神の福音を伝えることができるように頑張っていきたいと思ひます。

(なかお・まさこ 1926年生まれ、岡山支部扶助協会教師)

●中尾姉妹のバプテスマ会に集った岡山支部の会員



家庭は 小さな天国



大阪北ステキ部京都ワード部

木村 研一郎

「家」庭は小さな天国である」「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない」自分が教会員になったのは、このふたつの素晴らしい言葉に出会うためであったような気がします。

4人の子供を持つ親として、恥ずべき点はなかったかとしみじみ反省してみますと、本当に冷や汗の出る思いです。家庭のことは何から何まで妻に任せ切りにし、会社という、男だけが快適に過ごせる場に逃避していた自分、16歳から始めた飲酒喫煙を楽しむ、世話ばかり焼かせていた、父親とは名ばかりで子供同然の自分、叱るというよ

りその場その場の感情で子供たちにどなり散らしていた自分、家庭をほとんど顧みず、妻には要求することしか知らなかった自分、仕事に疲れたと言って（実際には内面的な葛藤に負けて）家族との話し合いなど考えもしなかった自分、何と身勝手であったことか、数えあげればきりがありません。しかし、そんな中でも子供だけは、国家をよりよくする役に立つ、次代を背負って立つ人間に育てたいなどと考えていたのです。

ちょうどそんな時、1979年4月半ばのある晩のことです。妻が英会話を習っていたふたりの宣教師が、自分たちで焼いたケーキを持って遊びに来てくれました。第一印象がとともさわやかで好感が持てましたので、その日のうちにすぐ打ち解け、楽しく話し合うことができました。もちろん私は、ウイスキーグラスを片手にしっかり持っていたが……。

子供たちの友達になってもらいたいと思い、毎週一回、都合の良い日に夕食を食べに来て、いろいろと教えて欲しいと頼んだところ、快く受け入れてくれました。しかしそれから2年間、私の生活は相変わらず夜は遅くまで起きて酒を楽しみ、朝は子供たちの「行ってきまーす」の声を目覚まし時計替わりに、ベッドから抜け出してくるというようなルーズな生活を送っておりました。

毎週水曜日の夜、一体何人の宣教師が入れ替わり立ち替わり、我が家を訪れてくれたことでしょう。それでも、神様のお話には一切無頓着な態度でいました。というよりはむしろ、お互いにそのことについてはタブーのようにして過ごしていたのです。

1981年10月7日、R・D・ラスマセン

という宣教師が「あなたは父親として家族に対して大きな責任があり、同時に天父の子としても大きな責任があることを知って下さい」というメッセージを携えて私の前に登場してきました。私はこの言葉を忘れぬように、それを書いたカードを今もって大切に持ち歩いています。そしてこのメッセージにより、今までの自分をしみじみと振り返り、反省してみますと、本当に恥ずかしい、情けないことばかり。まったく子供たちに合わず顔がないという気持ちになりました。

天のお父様の祝福の賜でしょうか、自己嫌悪に陥ることもなく、自分を改めねばならないと思うようになりました。それでもまだタバコとお酒、コーヒーはおいしく頂いておりました。もっとも当時のことを今考えますと、苦しいお酒を随分飲んでいたので、当時の日記には子供たちに申し訳ないという気持ち、妻に罪の赦しを請う気持ちがぎっしり書き込まれております。

1981年10月14日の家庭の夕べでラスマセン長老からチャレンジを受けました。「お酒やタバコ、コーヒーをきょうから一週間やめてみませんか。私も好きなチョコレート、クッキーを断ちます。」苦しいことだとは思いましたが、やってみることにしました。

毎日毎日お茶の代わりのように飲んでいたコーヒー、お酒を突然やめると、4、5日は宇宙遊泳をしているような気分でしたが、若者に負けてたまるかと思いながら、またたく間に一週間が過ぎていきました。一週間後の水曜日、宣教師と涙ながらに苦しみを乗り越えられたことを喜び合いました。

そして2週間後の1981年11月2日、嵐の中で生涯忘れることのできないバプテスマを家族全員で受けました。随分長い間回り道をしたものです。一番に子供たちが喜んでくれました。こんな素晴らしい子供たちを生み育ててくれた妻に心から感謝しています。

その一年後、1982年11月27日には、東京神殿で妻や子供たちと結び固めの祝福を頂きました。今本当に自分と妻とふたりで結婚以来17年間捜し求めていた生きる道を、見だし得た心地が致します。

苦しいにつけ悲しいにつけじっと目を閉じて、愛する妻の顔や子供たちの顔をひとりずつ静かに思い出します。すると必ず心の奥底から力が湧き出てきて、心が和みます。そしてまた、子供たち一人一人のお祈りしている姿を思い起こすことにしています。子供たちがお祈りしている時の姿は本当に美しいと思います。子供たちと妻が話をしているのを見るのが今はとても大きな楽しみとなっています。静かな広い森の中で小鳥のさえずりを聞くがごとく、私の耳に快く響いてきます。私たち家族は神様の祝福を頂き、今本当に幸せです。

私は特に愛する家族によって救われたように思え、彼らにいつも感謝の気持ちを持つようになっています。もしも4人の子供がなかったらと思うと、本当にこの子たちを授けて下さった神、全能の神に心から感謝の気持ちを捧げたく思います。これからの人生のすべてを愛する妻と4人の子供たちに捧げたいと考えているきょうこの頃です。地位や名誉、財産のすべてを放り出しても末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として生きていきたいと思います。また、妻と

ふたりでいつか伝道に出ようという生涯の目的を持たたことに感謝しています。

「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。また、だれでも、このようなひとりの幼な子を、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのであ

る。しかし、わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。」(マタイ 18: 3-6)

主は確かに私たちと共にあります。そしてこの教会が真実の教会であることを証します。(きむら・けんいちろう 1938年生まれ、京都ワード部長老定員会書記)



我が家の変化

—改宗2年後、支部長に召され—

東京東ステーキ部水戸支部支部長

高遠 茂

私は生来好奇心が旺盛で、何にでも首を突っ込んでみたがる性癖があります。それなりに趣味も多いのですが、これといって自慢できるものなど何もありません。とりわけ囲碁と日本画に凝っていて、教会に入る前の土曜日曜はこのどちらかに時間を浪費してばかりおりました。そんなある日のことでした。我が家に突然アメリカ人の若い宣教師が訪れたことから、大きな変化がもたらされました。

私のこれまでの人生で最も劇的な出来事といえば、主が備えられた真実の教会に改宗した時だと思えます。宣教師たちから聞かされた世にも珍しい驚くべき話が、何とも言えない気持ちのよい響きに聞こえ、世の中にこれほど大切で値打ちのある話はほ

かにないと思われました。加えて、もしこのまま世を去るようなことになったら大変なことになると悟り、恐怖心さえ抱くに至りました。

それから若干の^{うよきよくせつ}紆余曲折を経ましたが、夫婦揃って無事にバプテスマを受けたのは、今から8年前、私が45歳の時でした。当時水戸支部は日立、宇都宮、小山の各支部と共に水戸地方部に所属しており、東京伝道部の管轄下にあります。改宗者のほとんどが若い人たちばかりの中にあつて、私たちのような中年夫婦の改宗者は地方部の中でさきわめて少なく、時折引き合いに出されたものでした。

バプテスマを受けた後しばらくの間は、本当にこれで良かったのだろうかと思ひ不安定な時期がありましたが素晴らしい指導者たちの揺るぎない信仰を見るにつけては

勇気づけられ、聖典や他の書物を通して疑問を晴らし、さらに兄弟姉妹たちの温かい愛に支えられ、やがて心の中の霧がかき消されるように不安が取り除かれました。

改宗して2年ほど過ぎた時、出し抜けて支部長の召しがきました。指導者としての訓練など皆無に近い私は、まるで自動車を運転することができない人が、いきなり交通の激しい通りでハンドルを握らせられたような不安と戸惑いを感じました。私自身まだその器でないことは承知していましたが、一生懸命責任を果たすならば、私に不足の所は主が補って下さるに違いないと信じて、お引き受けしました。私にとってはまさに晴天の霹靂で、身の引き締まる思いがしました。初めの頃はさすがにおぼつかない運転でしたので、支部の人たちはさぞハラハラされたことだろうと思います。

私はこの時こそ天性の凝り性を発揮する時ぞとばかりにひたすら頑張りました。やがて家庭の中に変化が見られるようになりました。それは妻の信仰が急激に強まり、以前とは違って変わって協力的になってきたのです。それまではどちらかという、不承不承浮かぬ顔をしながら、やむを得ず私に付いてきた感じでしたので、彼女が何かのきっかけをつかんで信仰を強くしていくことができないものかとひそかに望んでいたところでした。

妻は風邪が元で耳を患い、久しく通院しましたが一向に快方に向かわず、かなり苦しいようでした。そうこうしている内に、ついに私に癒しの儀式を施して欲しいと言ってきました。その日は安息日でしたので、他の神権者の手を借りて支部長室で施しました。ところが、彼女は儀式が済んで

廊下に出るや否やそれまでの重苦しい不快感と耳鳴りから解放され、完全に癒されたことを知りました。それ以来再発することなく今日に至っております。

これが彼女にとって貴重な体験となり、見違えるほどに生き生きとしてまいりました。それに伴い、なんともいえない温かい安らぎが感じられる家庭になり、新たな光が差し込んできた思いがしました。さらに奇妙なことには、私の高血圧がいつの間にか正常値に下がっておりました。支部長に召された頃は最高180もあって、医者から嚴重な注意を受けていたものが、何の治療も受けずにまったく心配ない状態になり、今ではかなり無理がきき、肉体的な自信が持てるようになりました。

私は主のみ恵みに感謝の気持ちでいっぱいです。少しでも多く主の恩恵に報いたいものだと思います。(たかとう・しげる 1929年生まれ、水戸支部支部長)

編集室から

- ▶「各地のたより」「私の証」「職業と信仰シリーズ」「こどものひろば」などの原稿を募集しています。
- ▶8月号掲載分締切は6月20日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)を記入して下さい。宛先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室。

●価格変更のお知らせ

- ▶若い女性キャンプ技術修得メダル
250円→700円
- ▶同キャンプ技術修得ワッペン
150円→250円



「すべての事について 感謝しなさい」

—ヨーロッパの見本市で起きたトラブル—

東京北ステークキ部川越ワード部
筆記具メーカー勤務

水野 裕夫

私は筆記具メーカーの貿易部の仕事をしておりますが、仕事を通し主と交わる機会があることを感謝しております。

毎年、ヨーロッパで見本市が開催されており、イタリアのミラノでは、毎年1月末に開催されます。この見本市に出展するため、例年開催日の約2週間前までには展示商品を開催地へ航空貨物で送っております。今年も同じように手続きをし、私は他の人より一足先にミラノへ向かいました。

開催日の3日前に着き、すぐ航空貨物取扱い会社へ連絡をとりました。しかし今年は、あってはならないことが起こっていたのです。送った荷物がまだミラノに着いていないのです。ロンドン経由でミラノへ着くのですが、1月中旬、イギリスで例年がない大雪が降り、3日間、ロンドンの空港が完全に閉鎖されてしまいました。このためロンドンの空港を経由するすべての荷物がロンドン空港の倉庫に山積みとなっていたのです。私はびっくりして、すぐロンドンに問い合わせましたが「大混乱の状態です。貴社の荷物がどこにあるか探すことはとても不可能です。多分2週間位かかるでしょう」と、そっけない返事でした。

見本市が始まるまであと3日、東京から

応援に来る人々がイタリアに着くまで2日。私は茫然としてしまいました。どうしたらよいのか思い悩んでいる時ヨハネの言葉を思い出しました。「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。」私は心の中で祈りました。心を落ち着け、今何をしなければならないかを考えました。まず、考えられる処置をとりました。航空貨物会社の人がロンドン支店と連絡を取ると、支店の人がロンドンの空港へ行って荷物を調べ、分かり次第ミラノへ状況を知らせてくれることになりました。

私はホテルの部屋で、不安な気持ちで電話を待っていました。やがて、「ロンドンからは連絡がありません。きょうはもう連絡はないでしょう」と電話が入りました。これからすぐにもロンドンへ行って自分で荷物を捜したいと言いましたが、コンテナで送られており、自分で見つけることなどまず無理ですとはっきり言われ、夕やみがせまるミラノの街と同じうように、私の心も暗く沈んでいきました。

そんな中で、私は心に平安が欲しいと思い、聖書を開きました。ピリピ人への手紙の4章が目にとまりました。「何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝

をもって^{いのり}祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、イエス・キリストにあって守るであろう。」(ピリピ4:6-7) その時の私にとって、何にも変えがたい言葉でした。私はひざまずき主に話しました。このような長い祈りをしたのは初めてでしたが、祈っている間温かい空気が私を包んでくれているようで、心が癒されていくのを感じました。

翌朝、すぐ航空貨物会社へ行くと、「あなたの荷物が見つかりましたので一番早いロンドンからの飛行機に載せる手配をしました。しかし、きょうは朝からご覧のような霧で、今度はミラノの空港が閉鎖されました。この分だと2、3日は閉鎖が続くかもしれませんよ。確かにものすごい霧でした。車に乗っていても、2メートルほど前方を走る車がまったく見えないほどなのです。何ということでしょう。しかし、ただホテルで待っているのもつらく、ミラノの空港へ行ってみました。広いロビーには数人の人がいるだけで、到着便を知らせる電光掲示板もキャンセルの文字ばかりでした。ロビーからは次第に人々が去り、夕方にはほとんど誰もいなくなっていました。相変わらず掲示板にはキャンセル、または他の空港へ向かったことを知らせる文字でした。

見本市の準備にはたくさんの費用がかかっています。翌日になると東京から応援の人も来ます。自分の処置のどこがまずかったのか、どこに手落ちがあったのか、そんなことばかり考え、疲れた心と疲れた

身体でホテルへ戻りました。

私はマタイ11章の「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう」(マタイ11:28)という主の言葉を考えていましたが、その時私は本当に休みたいという思いで一杯でした。そんな私を主は聖典を通して温かく励ましてくれました。「神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(Iコリント10:13)また、「あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。」(マタイ6:34)私は心安らかに主と話すことができ、心から慰められたことに感謝しました。

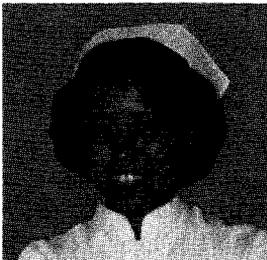
翌朝もやはりひどい霧でした。がっかりした気持ちで出かけようとした時、電話が入りました。「水野さん、荷物が着きましたよ!信じられないことですが」と言って彼はイタリア人特有の陽気な声で説明しました。「昨日、あなたの荷物を載せた飛行機が、最終便でロンドンを発ったんです。ところがミラノ上空へ来るとこの深い霧で、



ほかの飛行機と同じようにしばらく上空を旋回していたんです。着陸不可能ということで他の空港へ向かおうとしたんですが、その時、ほんのわずかな時間だけ滑走路を覆っていた霧が薄くなり、着陸ができたのです。その後また霧は深くなってしまって、結局昨日ミラノへ着いたのはその一機だけだったんです。その飛行機にあなたの荷物に乗っていただんですよ。信じられますか！」

その電話を聞きながら、私は心の中でテ

サロニケ人への手紙の中の言葉を思い浮かべていました。「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。」(IIテサロニケ5:18) 主は私たちが望むならば、どこにあっても常に共にいて下さることを心から証致します。(みずのひろお 1944年生まれ、東京北ステーク部高等評議員)



人はどこから来て どこへ行くのだろう

沖縄ステーク部那覇第2ワード部
看護婦

上池 澄江

私の勤めている所は産科と婦人科の混合病棟なので、きょう生命の誕生に立ち会うことがあるかと思えば、翌日には臨終の場面に立ち会うこともしばしばです。

壁ひとつ隔てて人生の初めと終わりがあり、まるで人生の縮図を見ている思いがします。

幼い頃からなぜか白衣の天使にあこがれ、この道を選びました。就職して約3年になりますが、いつも人の生や死について考えることのできるこの職に感謝しています。

取り上げた赤子が元気に産ぶ声を上げるのを聞く時、逆に悲しい死と出会う時、痛みと戦うつらい思いをぶつけてくる患者に接する時、私は謙遜になります。

そして、その度に「人は何のために生きているのだろう、一体人はどこから来てど

こへ行くのだろう」という言葉が私の心をとらえます。

就職して1年目、ある夜のお産に立ち会った時のことです。陣痛が強まり、分娩室に入った時はもう明け方になっていました。取り上げた子を見て私は立ちすくみました。一目見ただけでその子が生き長らえることはとても不可能だと判断できました。どうしようもないほどひどい奇形児でした。その母親は私の手を握りしめて泣きました。「どうして泣かないの、私の赤ちゃん。どうして……助けて下さい、お願い……私はどうでもいいから赤ちゃんを助けて」と。羊水を吸引しながら私も泣きました。

明るくなっていく夜空を見上げながら、その子を布でくるみ、私は静かに自分に問いかけました。「この子はどこから来て、ど

こへ行くのだろう」と。

つい最近、33歳の方が独身のまま、癌で亡くなりました。本当に明るい素晴らしい女性でした。彼女は発病後1年もたっていませんでした。

また、高校受験を目前にした長男を頭に3人の子を残し、47歳の方が亡くなりました。家族が泣きふす病室の中で、私も静かに目を閉じました。

「この人たちはどこから来て、どこへ行くのだろう」という思いが再び私の心をとらえました。

私は12歳の時バプテスマを受け、教会の教えの中で成長してきました。しかし、就

職して初めて、実際に人の生や死を目の前にして、「人がどこから来て、どこへ行くのか」ということを深く考えるようになりました。人生の目的を持つことの大切さを本当に心から感じられるようになりました。自分なりに悩み苦しんだ末、この福音の中で生きていこうと決心することができました。

患者さんの中で、自分の宗教について話すことはそれほどありませんが、いつも生き生きとした笑顔で、惜しみなく働く姿を通して自分の生き方を示せるように努めたと思っています。(うえち・すみえ 26歳, 那覇第2ワード部初等協会第2副会長)

★支部だより★

東京東ステキ部日立支部

★支部だより★

支部新聞とパソコンの活躍

東京東ステキ部の中でも最北端に位置する茨城県の日立支部は、東に海を望み、西には山々をあおぐ、年間を通して温暖な気候に恵まれた工業都市日立市の中にあります。このような自然環境の影響もあるのでしょうか、素朴で温かい人間関係と、都市的合理性を合わせ持っているのがこの支部の特徴です。

日立支部は中田洋一支部長の下に会員は138名を数え、日曜日の集会には約30名の

会員が活発に集っています。伝道に熱心なことはすでに4名の専任宣教師を送り出していることから伺えます。

現在支部を挙げて取り組んでいるのが会員同士の触れ合いの強化です。その目的の一端を担って編集されているのが支部新聞「ふれあい」です。木村敏則兄弟(書記)を委員長に、若い女性と十代の扶助協会のメンバーを委員として新聞委員会が設立されたのは昨年9月、以来毎月1回発行を目標に若い会員たちの手で作り続けられています。

この新聞には支部長、長老定員会、扶助協会会長のメッセージ、教会内のニュース、連絡事項が載せられています。ホームティーチングや家庭訪問に利用でき、また会員に必要な情報が載っていることから大変好評を博して



います。編集に当たる染谷，小林，吉成，野口，志賀姉妹は，それぞれ投稿編集，発行部に属し，毎月の定例会集会で前号の反省，次号のテーマなどをディスカッションし，内容の充実を図っています。

人材以外に支部のために大きな力となっているものがもうひとつあります。それはマイコンです。コーリレーションに必要な情報すべてを打ち出してくれる力強い味方です。これによって各組織の会長は，各集

会の出席者の動向，ホームティーチング，家庭訪問，神殿参入などの状況を把握でき，記録作成に用いていた時間，労力をかなり省くことができました。会員の組織移行の時期も直ちに分かり，スムーズに移行できるようにになりました。

日立支部はいろいろと新しい企画を打ち出しながら発展を続けています。(レポーター：東京東ステキ部日立支部扶助協会会長・木村明美)

◆新築竣工スナップ◆

東京南伝道本部

◇所在地：東京都武蔵野市吉祥寺東町
1-7-7

Tel. 0422(21)2619

◇構造：鉄骨造り3階建て

◇東京ステキセンターと同一敷地内の元宣教師ハウス跡に建設。従来は伝道部長宅と宣教師宿舎および事務所とは別棟で建てられていたが，伝道部長住宅と宣教師事務所(宿舎も含め)同一棟にまとめられた。



●東京南伝道本部居間

小祿ワード部教会堂

景観のよい小高い丘の上の狭い土地を効果的に活用し，沖縄の素材(港川石)を使った南国的な風情を持つ建物。2階の礼拝堂の窓には色ガラスのブラインドが取り付けられ，夏場でもよほど暑くなければ冷房がいらぬように配慮されている。各部屋から部屋への通気も工夫がなされ，天井から暑い空気が抜け出るように設計されている。

◇所在地：沖縄県那覇市小祿万越原964-1
Tel. 0988(58)8991

◇敷地面積：669.42㎡

◇延べ面積：448.444㎡ (1階床面積
201.412㎡，2階床面積247.032㎡)

●小祿ワード部教会堂
(1983年2月26日完成)



●東京南伝道本部
(1983年1月18日完成)

